

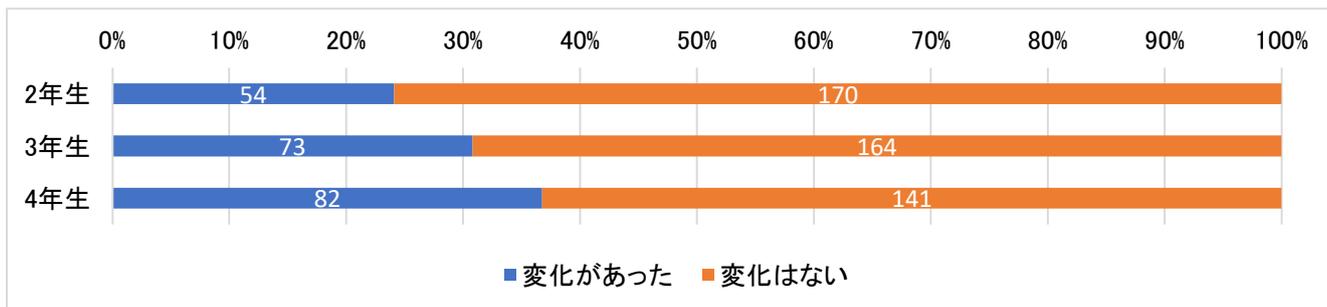
2024 年度卒後進路の検討・選択の状況に関する調査 結果まとめ

対象者数： 2024 年度在籍の学部 2・3 年生（計 3,918 名）
回答数（率）： 684 名（回答率 17.5%）

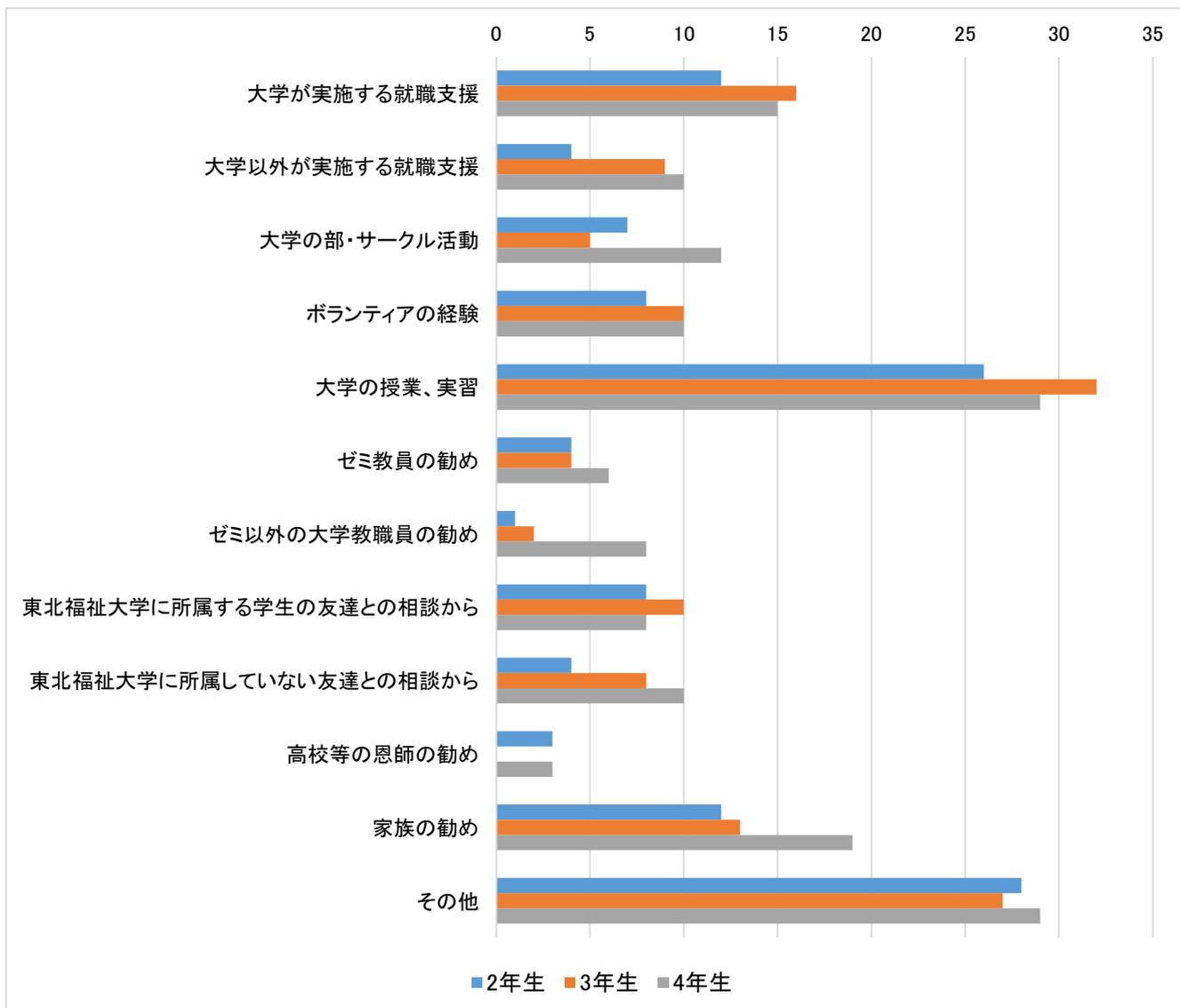
2 年生：224 名/1,311（回答率 17.1%）
3 年生：237 名/1,315（回答率 18.0%）
4 年生：223 名/1,291（回答率 17.3%）

I. 全学の傾向

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？



2. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？ (人)

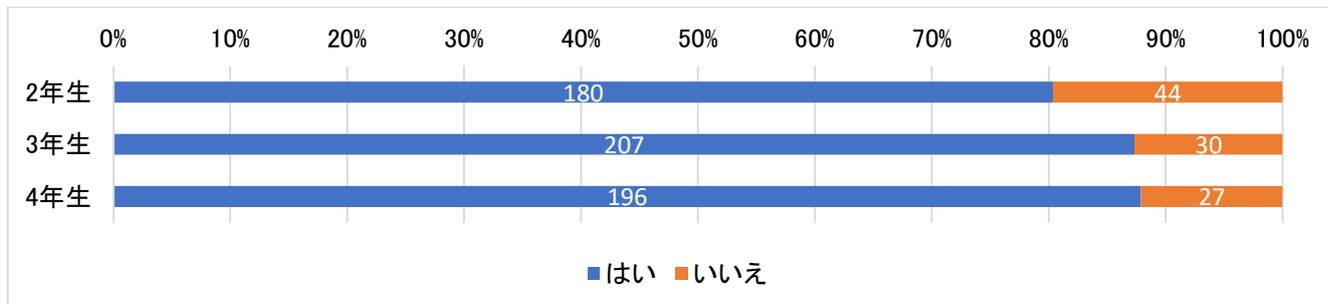


<コメント>

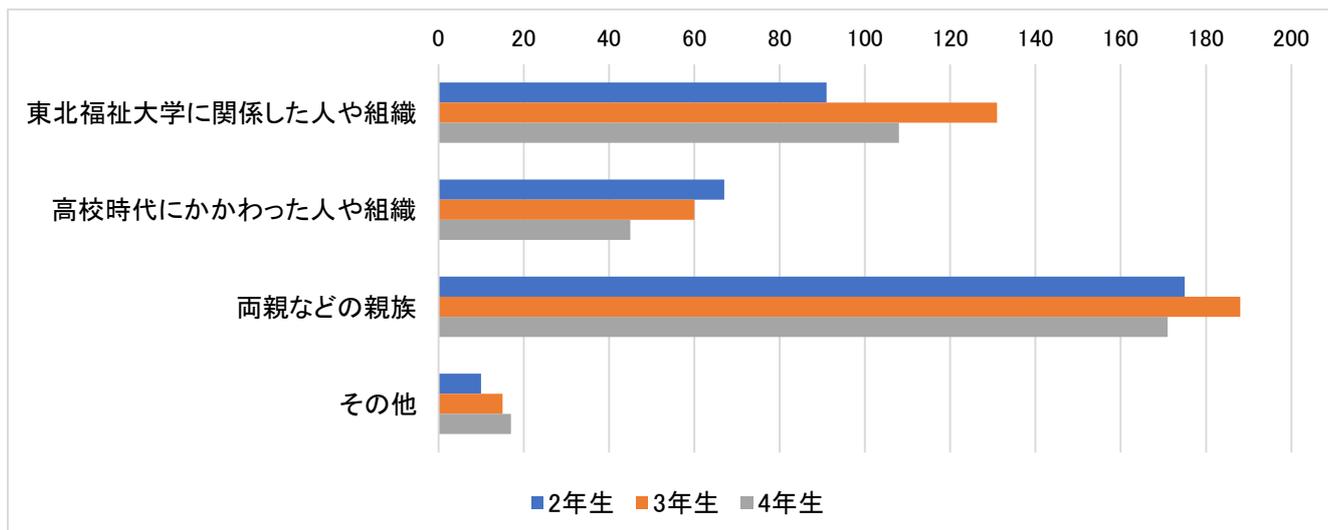
◆入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 30.6%であった。学年別にみると、4年生が 36.6%と高く、つぎに3年生 30.8%、2年生 24.2%の順であった。学年が上がるにつれて進路に変化が生じる学生が多いことが分かる。

◆進路変更のきっかけとなったものとして、最も割合が高かった(その他を除く)のは「大学の授業、実習」で 12.7%、つぎに「家族の勧め」6.4%、「大学が実施する就職支援」6.3%であった。「大学の授業、実習」が進路変更のきっかけとなった学生は3年生に多い。また、「家族の勧め」が進路変更のきっかけとなった学生は4年生に多い。

3. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



4. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？（人）



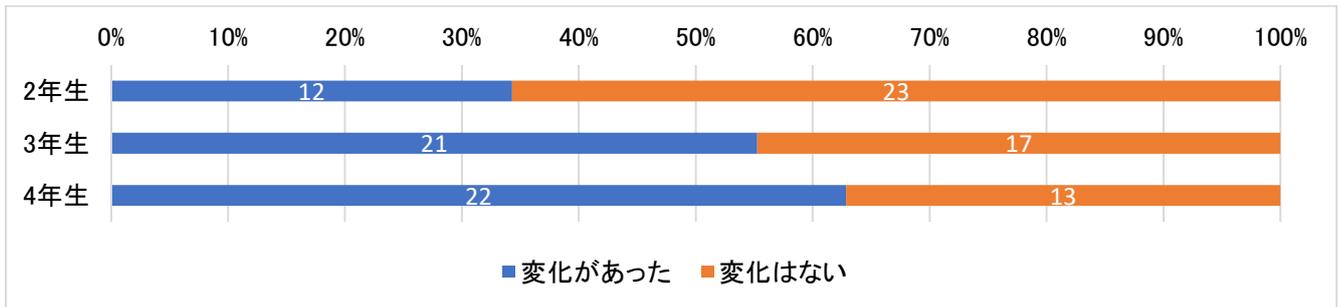
<コメント>

- ◆進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談した学生は、全学年 85.2%であった。学年別にみると、4年生が 87.5%と高く、つぎに 3年生 87.3%、2年生 80.7%の順であった。学年が上がるにつれて、相談した学生の割合が増えていることから、就職（活動）が近づくにつれ進路に悩みが生じているものと考えられる。
- ◆どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）について、最も割合が高かったのは「両親など親族」で 78.1%であった。
- ◆「東北福祉大学に関係した人や組織」と回答した学生は 48.2%である。約半数の学生は東北福祉大学に関係した人や組織に実施に相談した、または相談したいと考えている。

II. 学科別

(1) 社会福祉学科

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

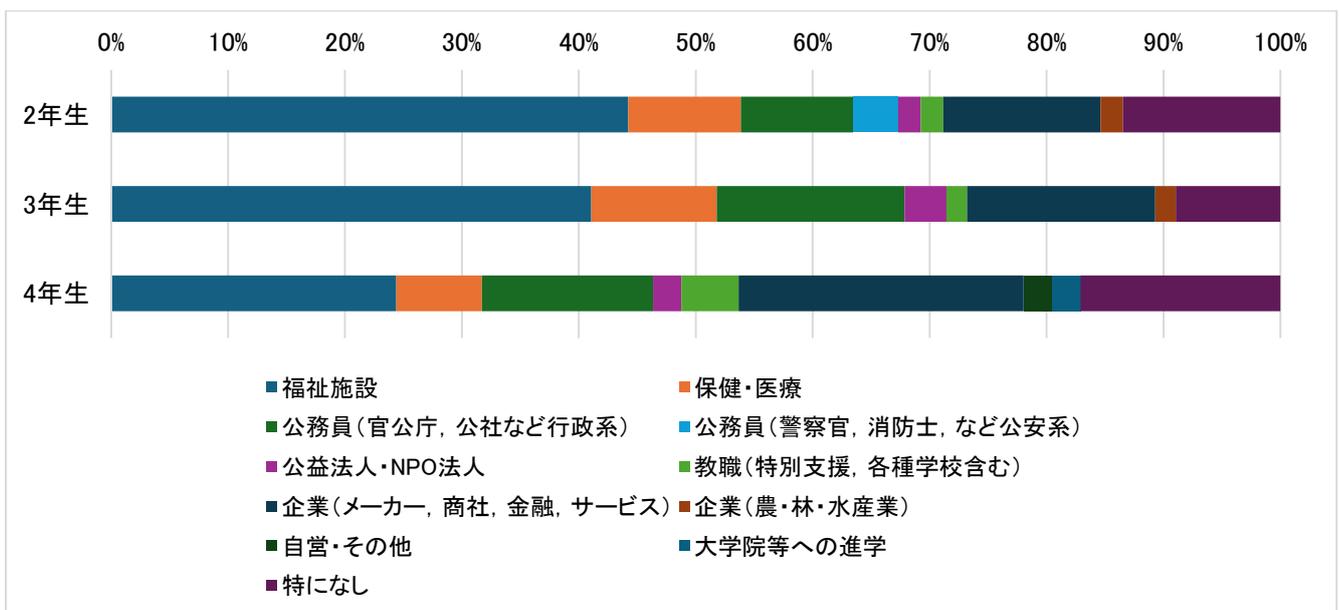


<コメント>

◆社会福祉学科の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 50.9%であった。半数以上の学生が入学時から進路に変化があったことが分かる。特に 4 年生は 6 割以上の学生が入学時から進路に変化があった。

◆学年別にみると、4 年生が 62.9%と高く、つぎに 3 年生 55.3%、2 年生 34.8%の順であった。学年が上がるにつれて進路に変化が生じる学生が多いことが分かる。

2. 入学時に志望していた進路



<コメント>

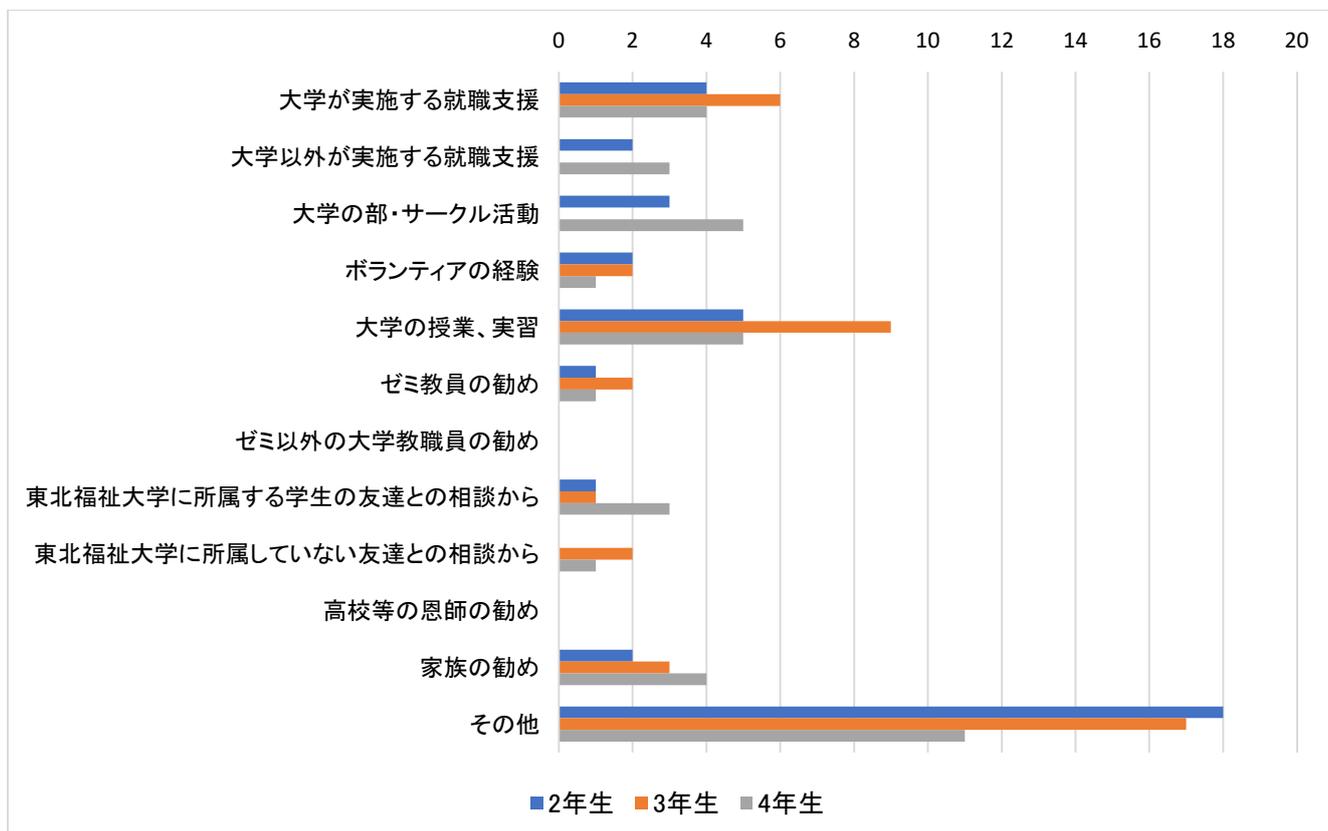
◆社会福祉学科の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「福祉施設」の割合が最も高く 37.6%であった。つぎに「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」17.4%、「特になし」12.8%の順であった。

◆4 年生は入学時に「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」を志望していた学生が多く、「福祉施設」を志望していた学生と同じ割合であった。

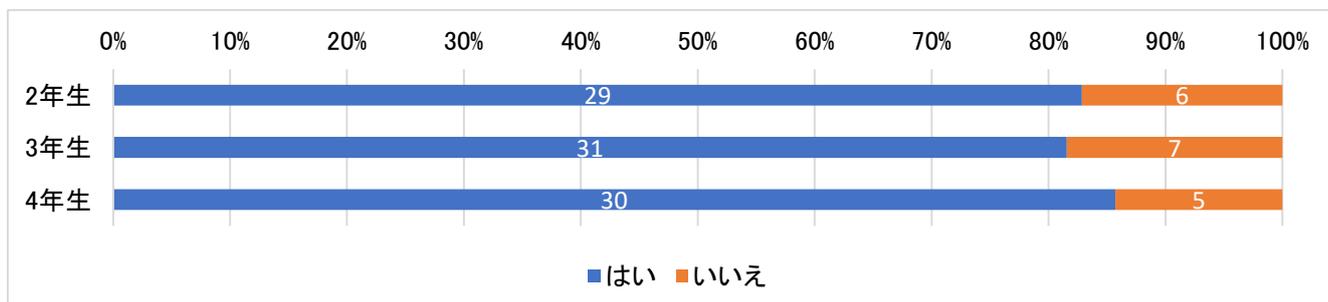
◆入学時に 1 割の学生は志望していた進路を「特になし」と回答していることから、入学時に進路についてあまり考えていなかった学生が少なくないと言える。

◆入学時から進路が変化した学生を見ると、「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」に変化が最も多く 28 名、ついで「福祉施設」に変化が 23 名、公務員(公官庁、公社など行政系)に変化が 9 名の順であった。

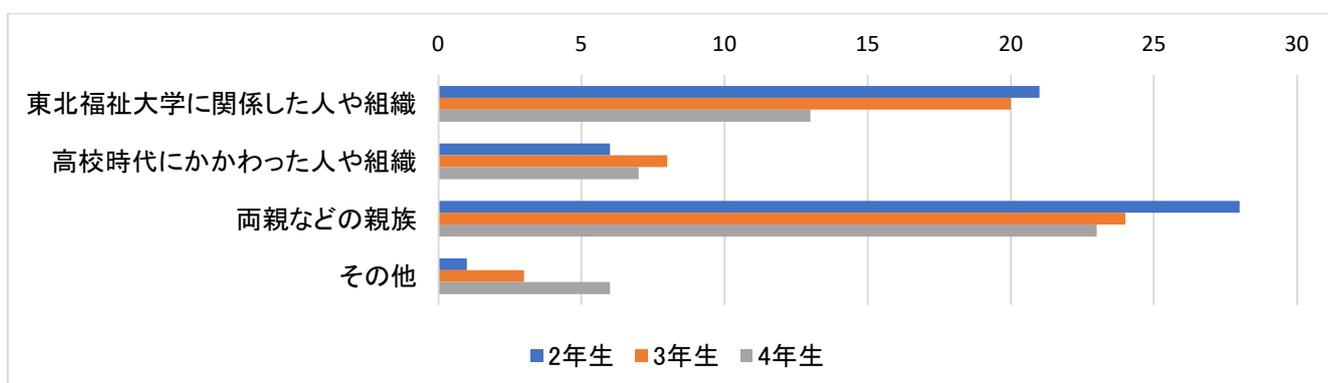
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？（人）



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

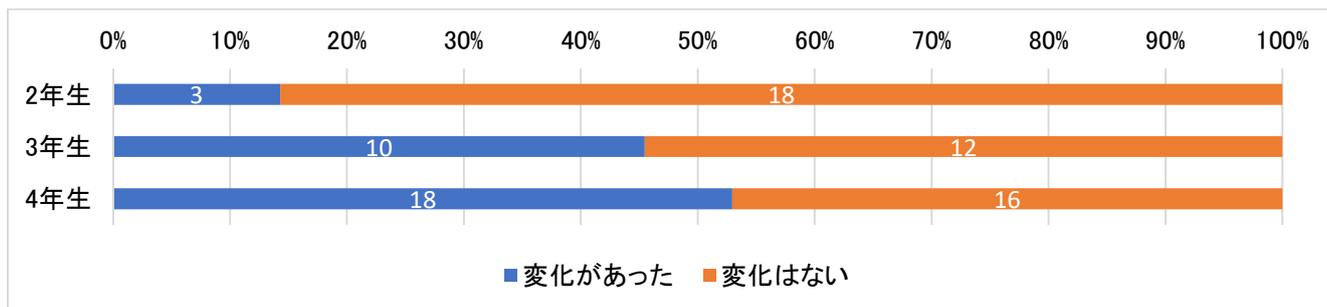


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったもの（「その他」を除く）を全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く19名、つぎに「大学が実施する就職支援」14名、「家族の勧め」9名の順であった。
- ◆社会福祉学科の学生は進路を選択するにあたり、8割以上の学生は誰かに相談した。なお、相談の有無について学年による大きな違いはない。
- ◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。

(2) 福祉心理学科

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

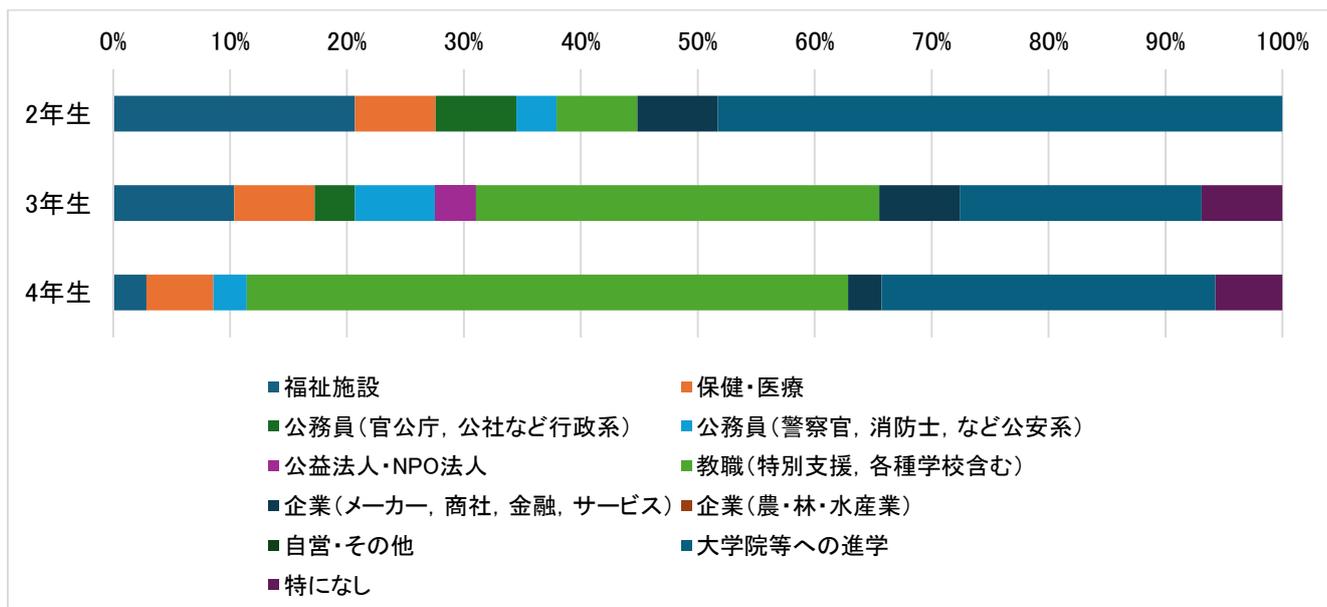


<コメント>

◆福祉心理学科の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 40.3%であった。4割以上の学生が入学時から進路に変化があったことが分かる。特に4年生は半数以上の学生が入学時から進路に変化があった。

◆学年別にみると、4年生が52.9%と高く、つぎに3年生45.5%、2年生14.3%の順であった。2年生はあまり入学時から進路に変化が生じていないが、3年生になると急激に割合が上昇している。したがって、3年生での学び等が進路に大きく影響している可能性がある。

2. 入学時に志望していた進路



<コメント>

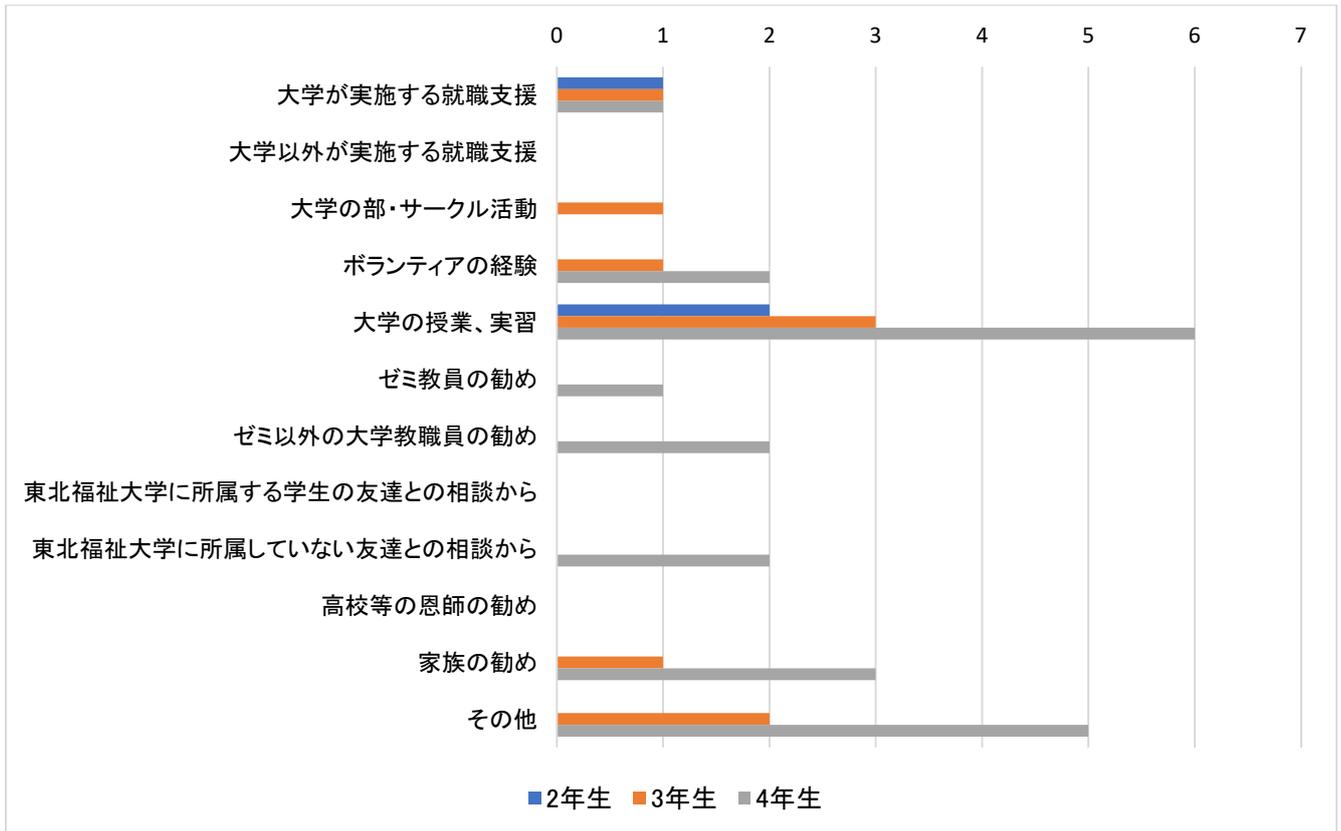
◆福祉心理学科の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「教職(特別支援, 各種学校含む)」および「大学院等への進学」の割合が最も高く32.3%であった。つぎに「福祉施設」10.8%、「保健・医療」6.4%の順であった。

◆3年生、4年生は入学時に「教職(特別支援, 各種学校含む)」を志望していた学生の割合が高く、2年生は「大学院等への進学」を志望していた学生の割合が高い。

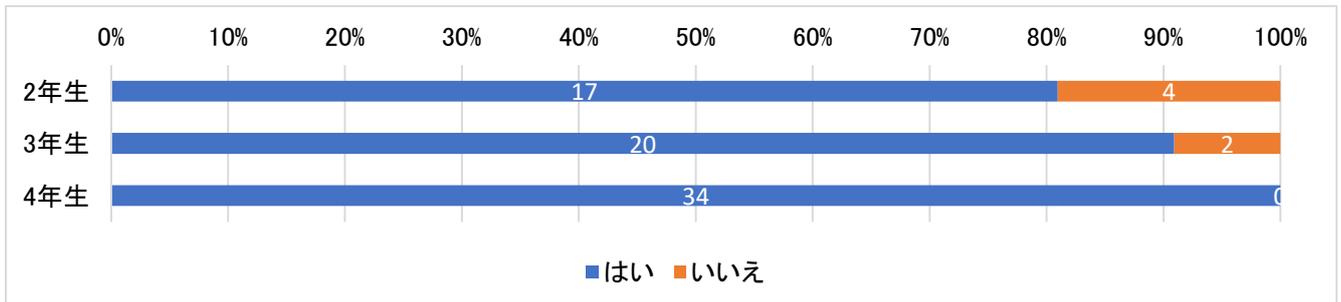
◆福祉心理学科では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が極めて少ないことから、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。

◆入学時から進路が変化した学生を見ると、「企業(メーカー, 商社, 金融, サービス)」に変化が最も多く17名、ついで「福祉施設」に変化が7名、「公務員(官公庁, 公社など行政系)」に変化が7名であった。

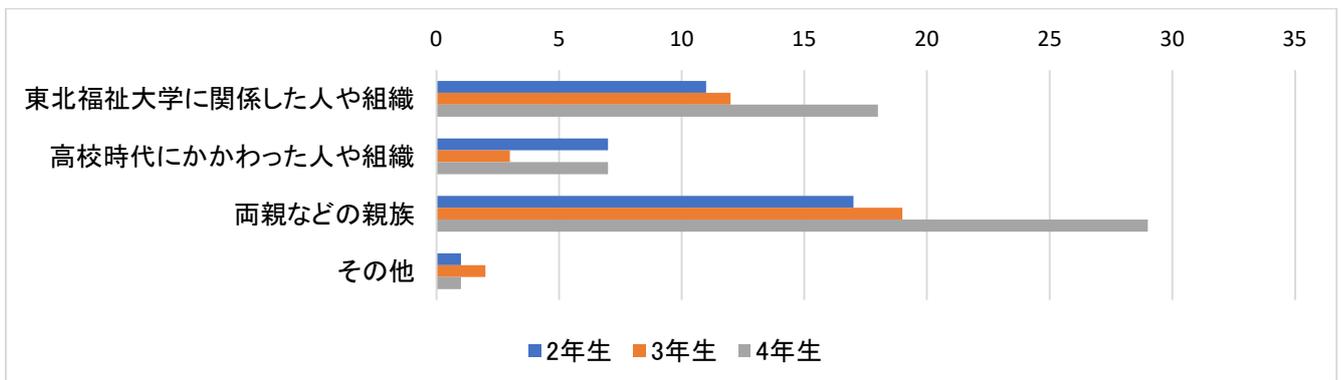
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

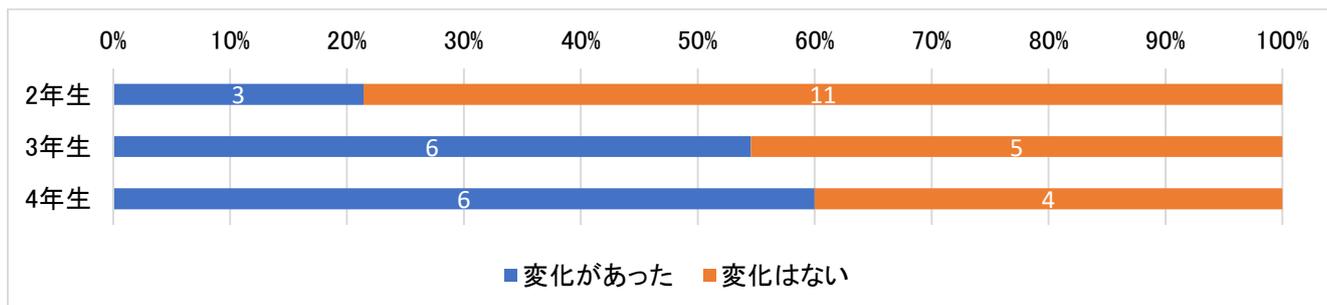


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったもの（「その他」を除く）を全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く11名、つぎに「家族の勧め」4名であった。
- ◆福祉心理学科の学生は進路を選択するにあたり、9割以上（92.2%）の学生は誰かに相談した。特に4年生は進路を選択するにあたり全員誰かに相談していた。
- ◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。

(3) 福祉行政学科

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

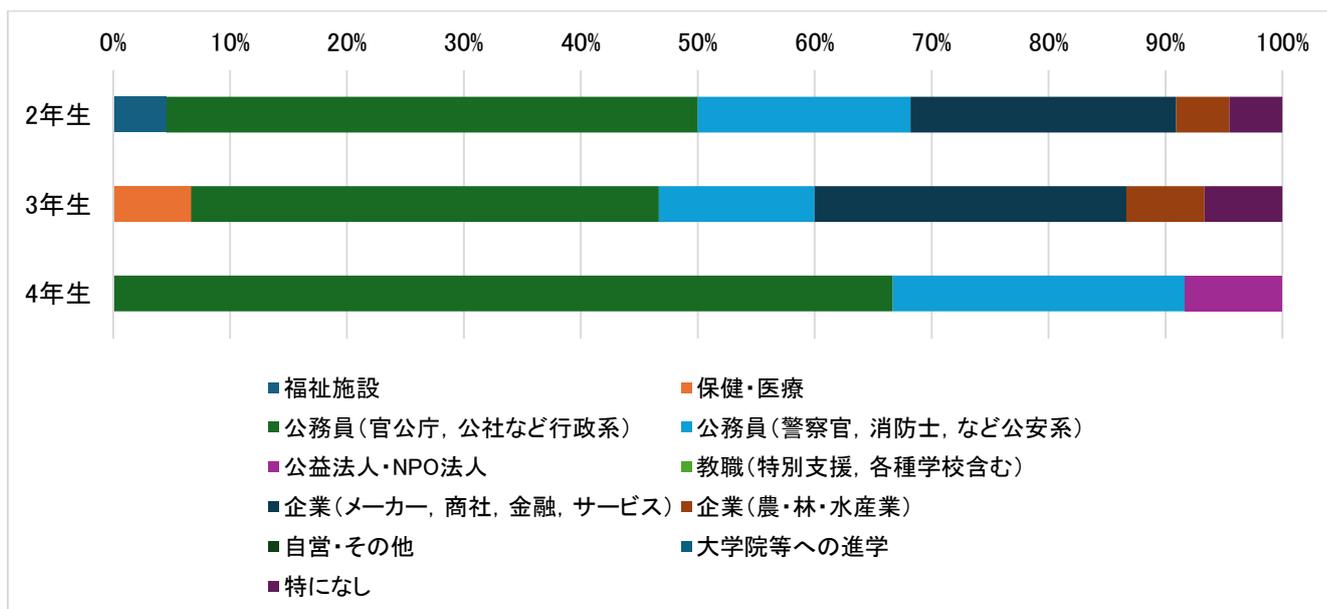


<コメント>

◆福祉行政学科の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 42.9%であった。4割以上の学生が入学時から進路に変化があったことが分かる。特に4年生は6割の学生が入学時から進路に変化があった。

◆学年別にみると、4年生が60.0%と高く、つぎに3年生54.5%、2年生21.4%の順であった。2年生はあまり入学時から進路に変化が生じた学生の割合は低いが、3年生になると急激に割合が上昇している。したがって、3年生での学び等が進路に大きく影響している可能性がある。

2. 入学時に志望していた進路



<コメント>

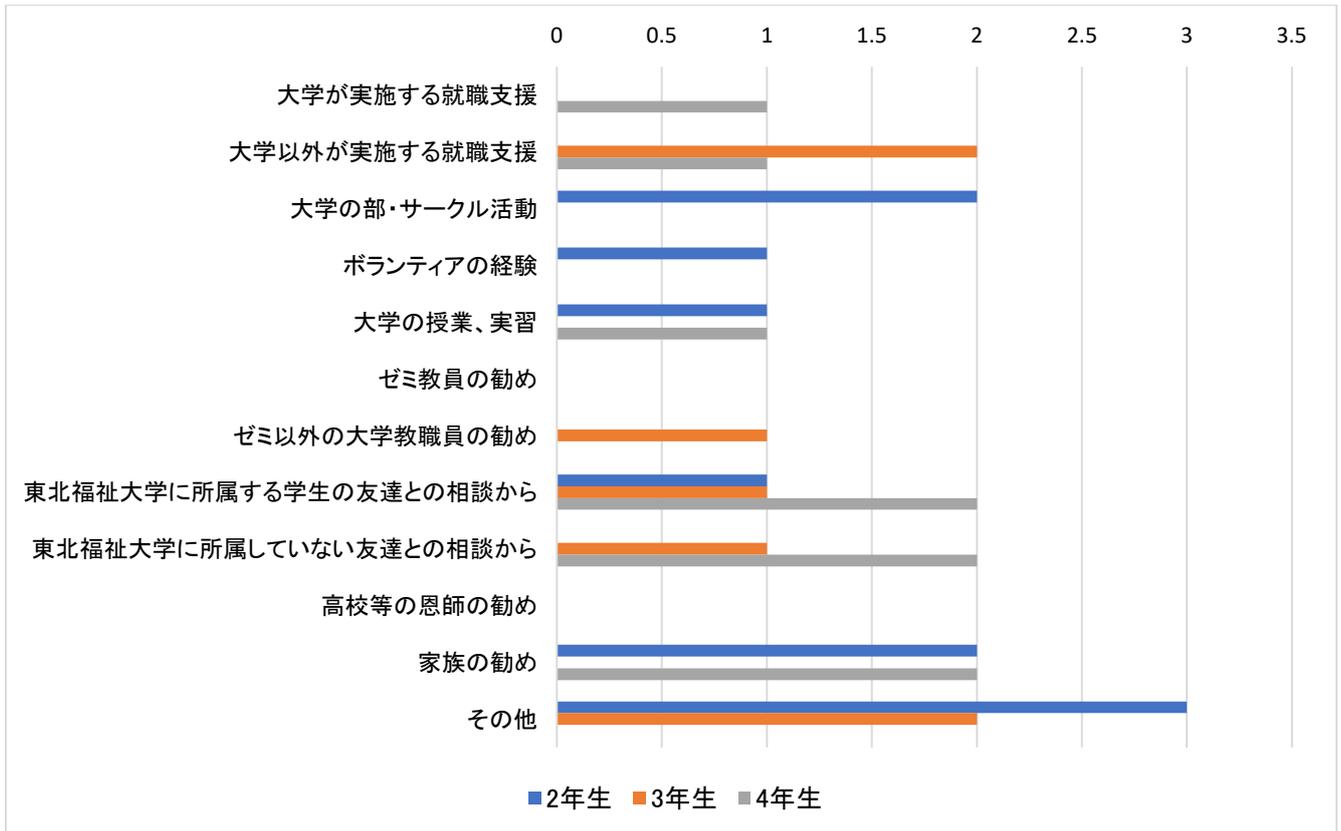
◆福祉行政学科の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「公務員(官公庁、公社など行政系)」の割合が最も高く49.0%、つぎに「公務員(警察官、消防士、など公安系)」および「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」18.4%であった。約7割(67.4%)の学生は公務員を志望していたことが分かる。

◆2~4年生すべてで入学時に「公務員(官公庁、公社など行政系)」を志望していた学生の割合が最も高い。特に、4年生はその割合が高く66.7%であった。

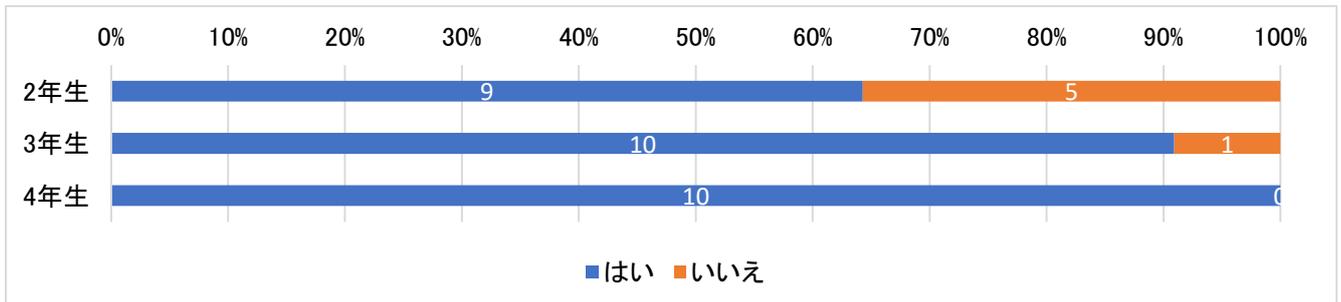
◆福祉行政学科では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が極めて少ないことから、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。

◆入学時から進路が変化した学生を見ると、「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」に変化が最も多く13名、ついで「公務員(官公庁、公社など行政系)」に変化が8名、「公務員(警察官、消防士、など公安系)」が4名であった。

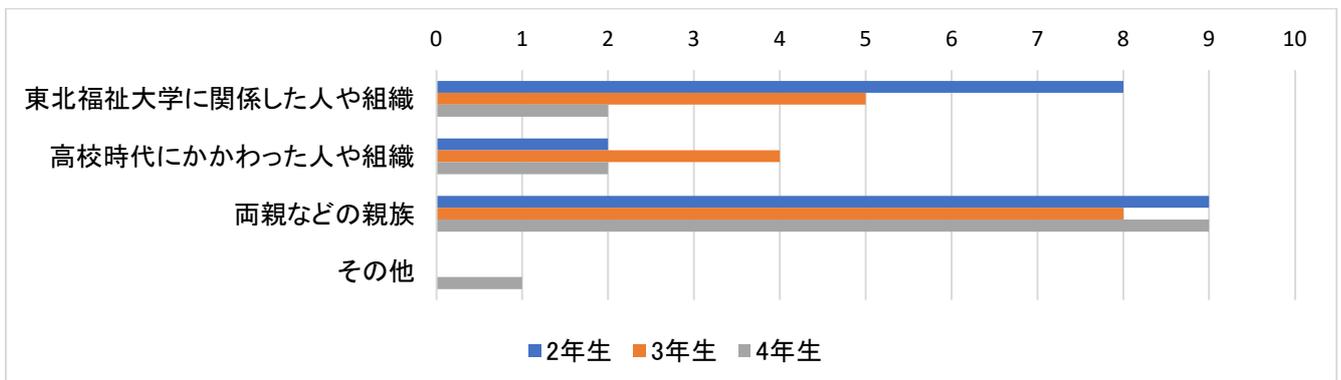
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

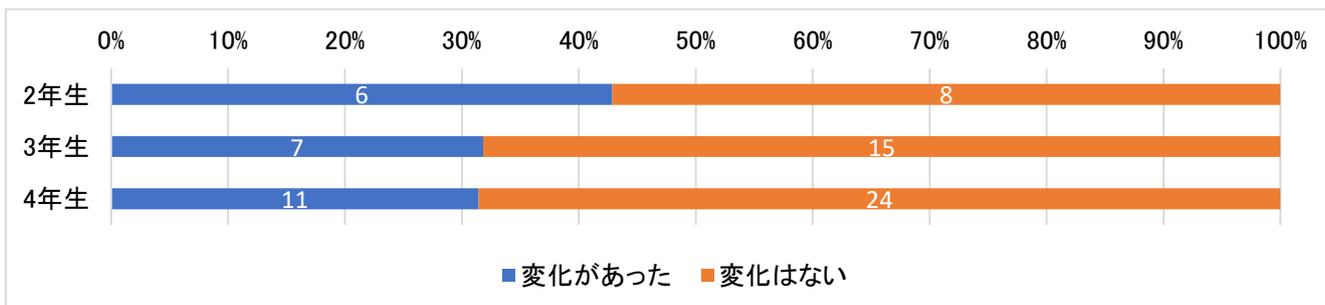


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったもの（「その他」を除く）を全学年で見ると、「東北福祉大学に所属する学生の友達（友人）との相談から」および「家族の勧め」が最も多く4名であった。
- ◆福祉行政学科の学生は進路を選択するにあたり、8割以上（82.9%）の学生は誰かに相談した。特に4年生は進路を選択するにあたり全員誰かに相談していた。
- ◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。

(4) 産業福祉マネジメント学科

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

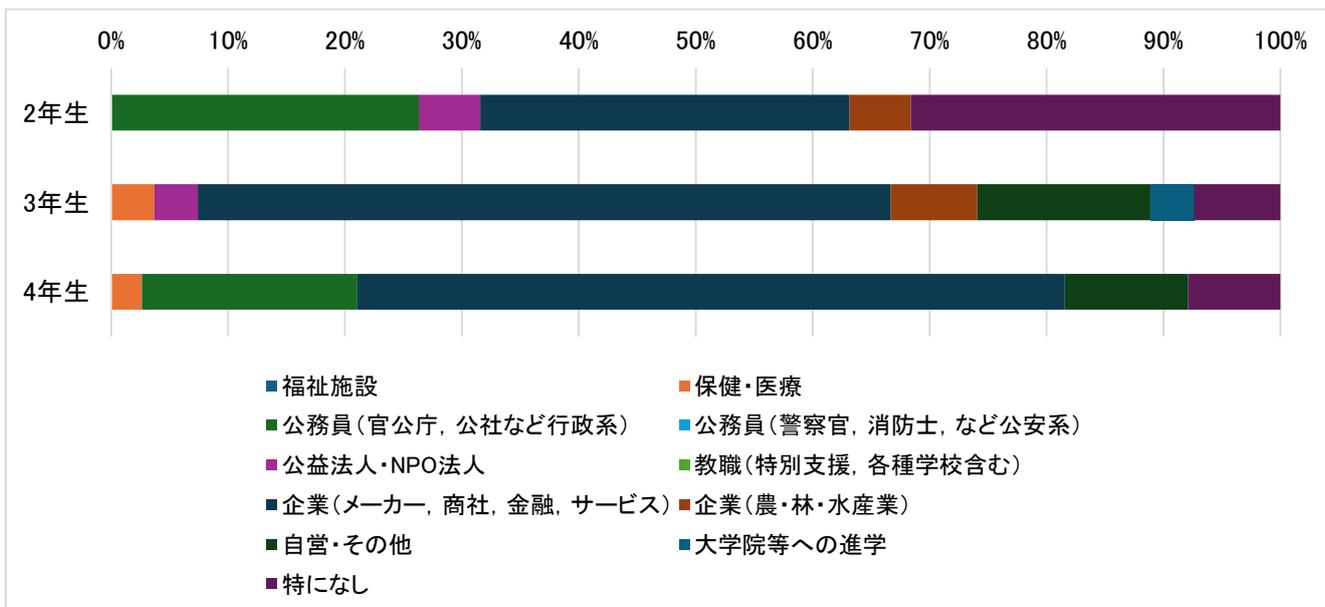


<コメント>

◆産業福祉マネジメント学科の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 33.9%であった。入学時から進路に変化があった学生は比較的少なく、約 7 割(66.2%)の学生は入学時から進路に変化がない。特に 4 年生は 6 割の学生が入学時から進路に変化があった。

◆学年別にみると、2 年生が 42.6%と高く、つぎに 3 年生 31.8%、4 年生 31.4%の順であった。2 年生は入学時から進路に変化が生じた学生の割合が若干高いが、3 年生、4 年生でその割合はほとんど変わらない。

2. 入学時に志望していた進路



<コメント>

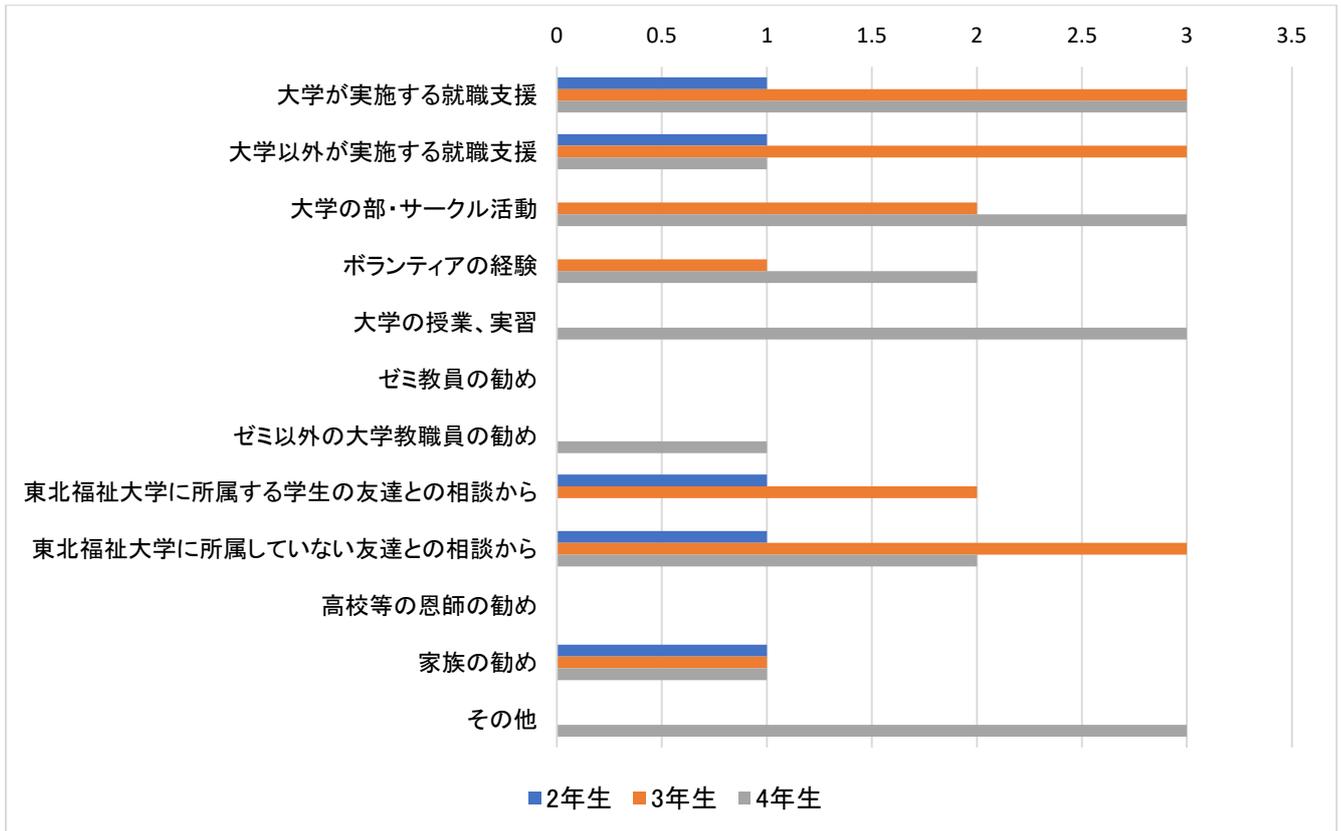
◆産業福祉マネジメント学科の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」の割合が最も高く 63.4%、つぎに「公務員(官公庁、公社など行政系)」16.9%、「自営・その他」11.3%であった。入学時に「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」を志望している学生が圧倒的に多い。

◆3 年生、4 年生は入学時に「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」を志望していた学生の割合が最も高いが、2 年生は「特になし」の割合が高く、「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」と同じ割合であった。

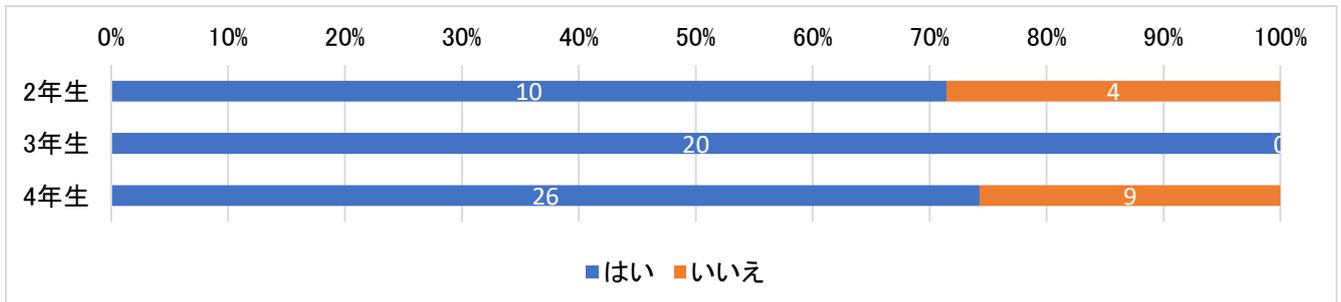
◆産業福祉マネジメント学科では入学時に 15.5%の学生(2 年生は 42.9)は志望していた進路を「特になし」と回答していることから、入学時に進路についてあまり考えていなかった学生が少なくないと言える。

◆入学時から進路が変化した学生を見ると、「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」に変化が最も多く 25 名、ついで「公務員(官公庁、公社など行政系)」および「公務員(警察官、消防士、など公安系)」が 4 名であった。

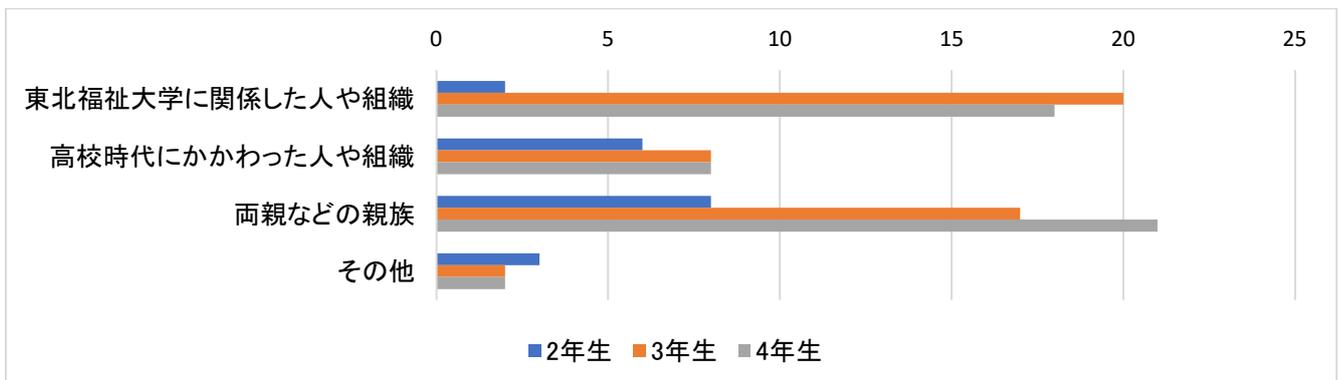
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

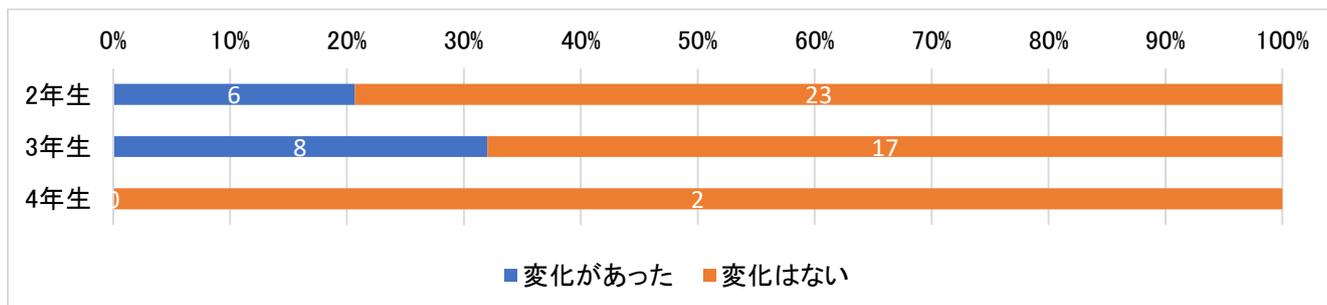


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったもの（「その他」を除く）を全学年で見ると、「大学が実施する就職支援」が最も多く7名、ついで「東北福祉大学に所属していない友達（友人）との相談から」6名であった。
- ◆産業福祉マネジメント学科の学生は進路を選択するにあたり、8割以上（81.7%）の学生は誰かに相談した。特に3年生は進路を選択するにあたり全員誰かに相談していた。
- ◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。

(5) 情報福祉マネジメント学科

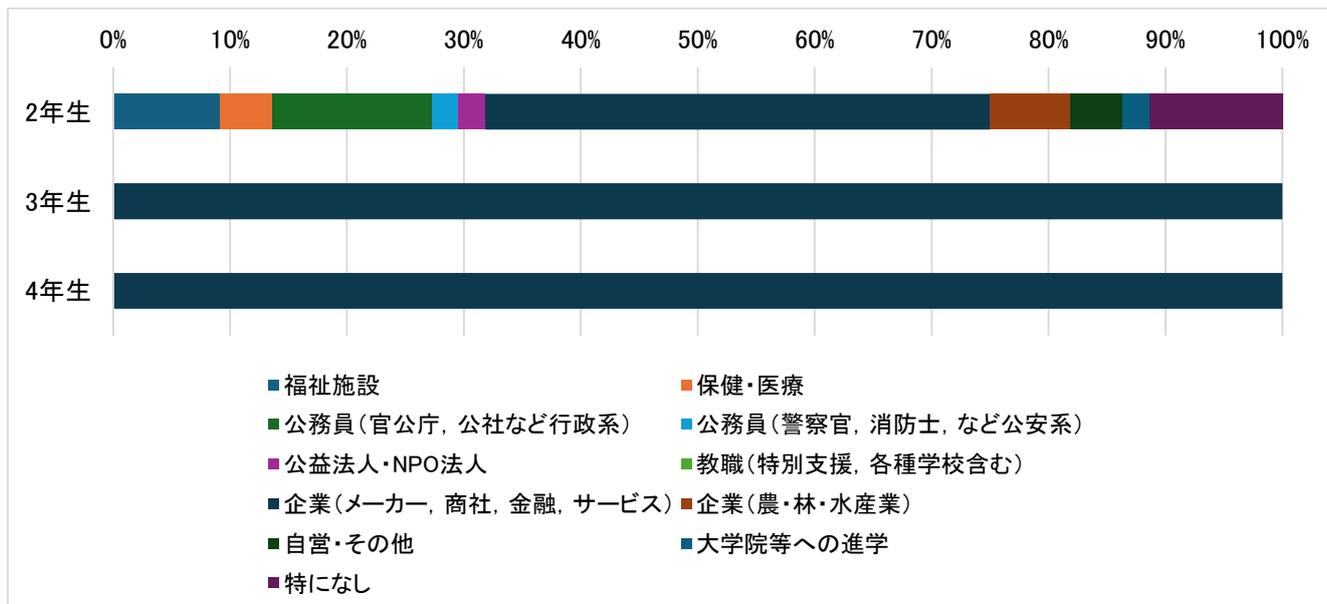
1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？



<コメント>

◆情報福祉マネジメント学科の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 25.0%であった。入学時から進路に変化があった学生は比較的少なく、75.0%の学生は入学時から進路に変化がない。
◆学年別にみると、3年生が 32.0%と高く、つぎに2年生 20.7%、4年生 0%の順であった。ただし、4年生はサンプル数が2であるため結果の解釈には注意が必要である。

2. 入学時に志望していた進路

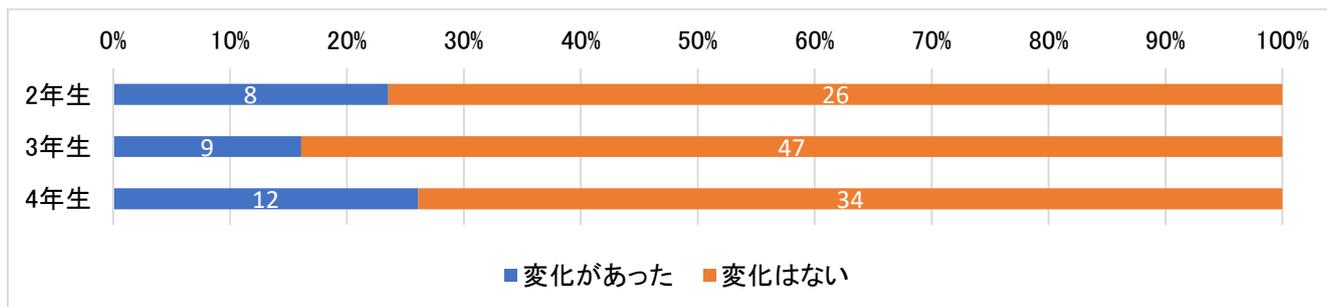


<コメント>

◆産業福祉マネジメント学科の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」の割合が最も高く 64.8%、つぎに「公務員(官公庁、公社など行政系)」8.5%であった。入学時に「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」を志望している学生が圧倒的に多い。
◆3年生、4年生は入学時に「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」を志望していた学生の割合は 100%であった。2年生も「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」を志望していた学生の割合が圧倒的に高かったが、約 1割は「特になし」と回答している。このことから、入学時に進路についてあまり考えていなかった学生が少なくないと言える。
◆入学時から進路が変化した学生を見ると、「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」に変化が最も多く 19名、ついで「公務員(官公庁、公社など行政系)」が6名であった。

(6) 教育学科 初等教育専攻

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？



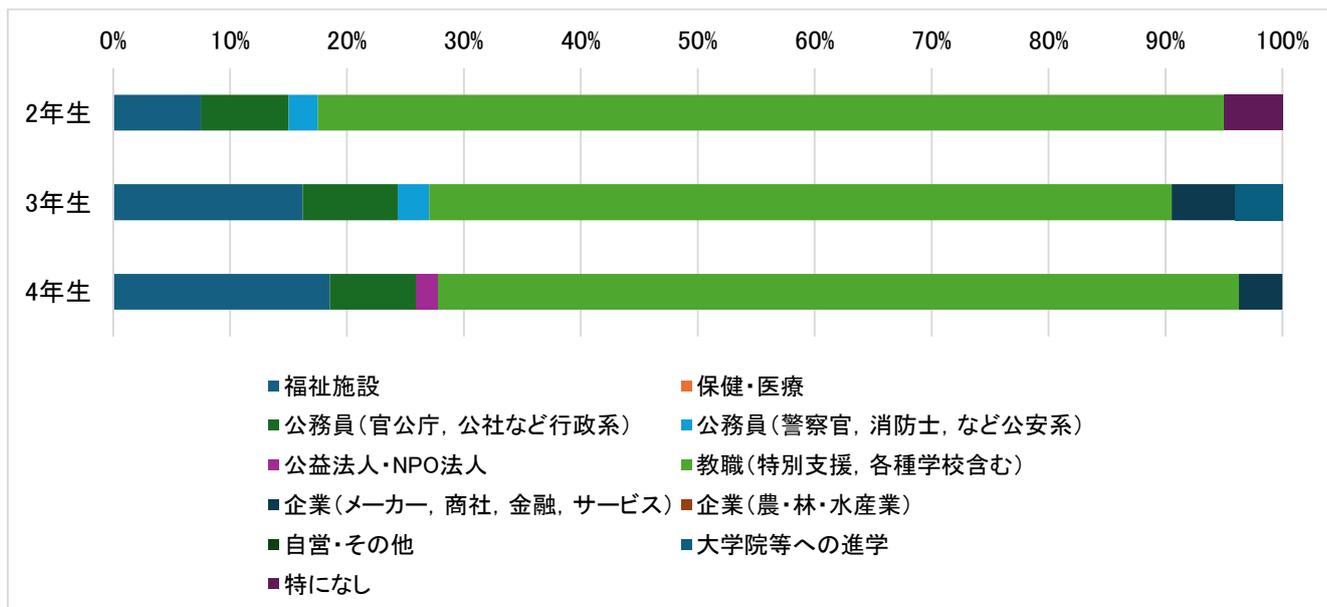
<コメント>

◆教育学科初等教育専攻の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 21.3%であった。入学時から進路に変化があった学生は比較的少なく、約 8 割(78.7%)の学生は入学時から進路に変化がない。

◆一方、教員になることが主たる目的の学科において約 2 割の学生が進路に変化が生じている。

◆学年別にみると、4 年生が 26.1%と高く、つぎに 2 年生 16.1%、3 年生 16.1%の順であった。

2. 入学時に志望していた進路



<コメント>

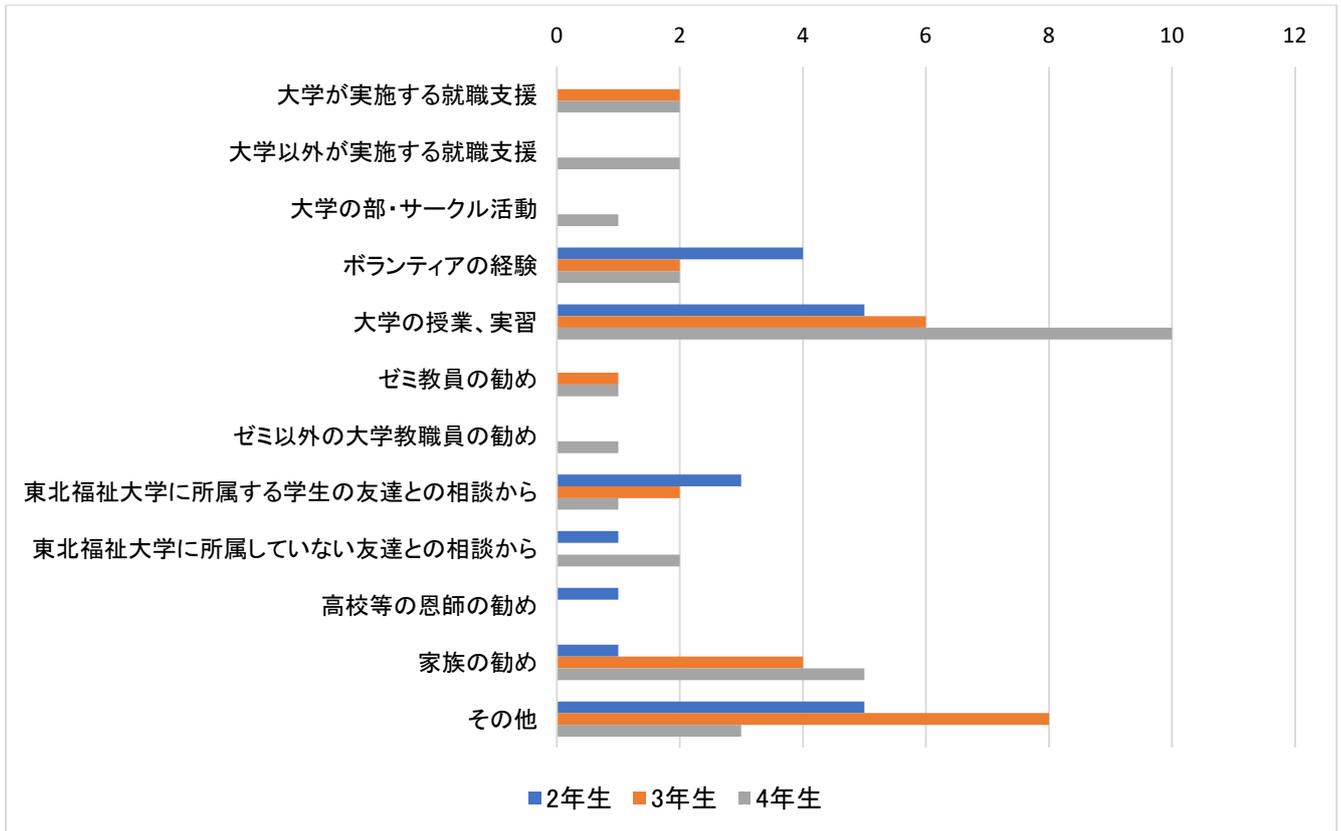
◆教育学科初等教育専攻の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「教職(特別支援、各種学校含む)」の割合が最も高く 68.5%、つぎに「福祉施設」14.9%、公務員(官公庁、公社など行政系)7.8%の順であった。学科の特徴の通り入学時に「教職(特別支援、各種学校含む)」を志望している学生が圧倒的に多い。

◆2~4 年生すべてで入学時に「教職(特別支援、各種学校含む)」を志望していた学生の割合が最も高い。入学時に志望していた進路に学年による大きな違いはない。

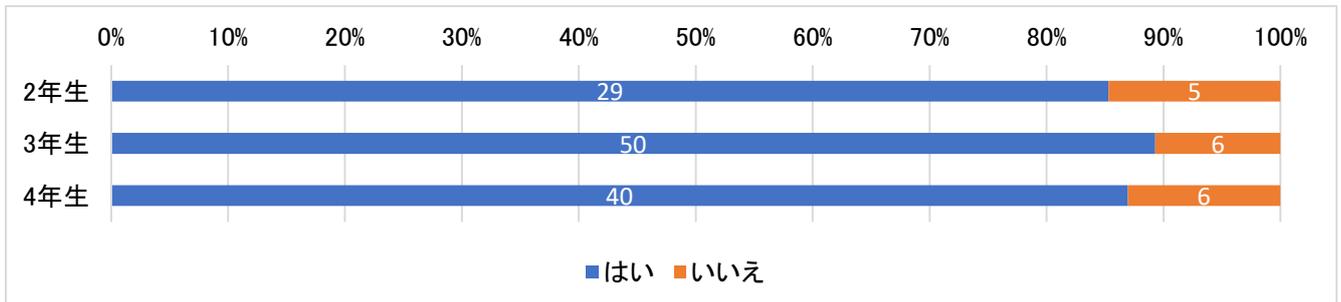
◆教育学科初等教育専攻では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が極めて少ないことから、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。

◆入学時から進路が変化した学生を見ると、「教職(特別支援、各種学校含む)」に変化が最も多く 32 名、ついで「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」に変化が 10 名、「福祉施設」が 9 名であった。

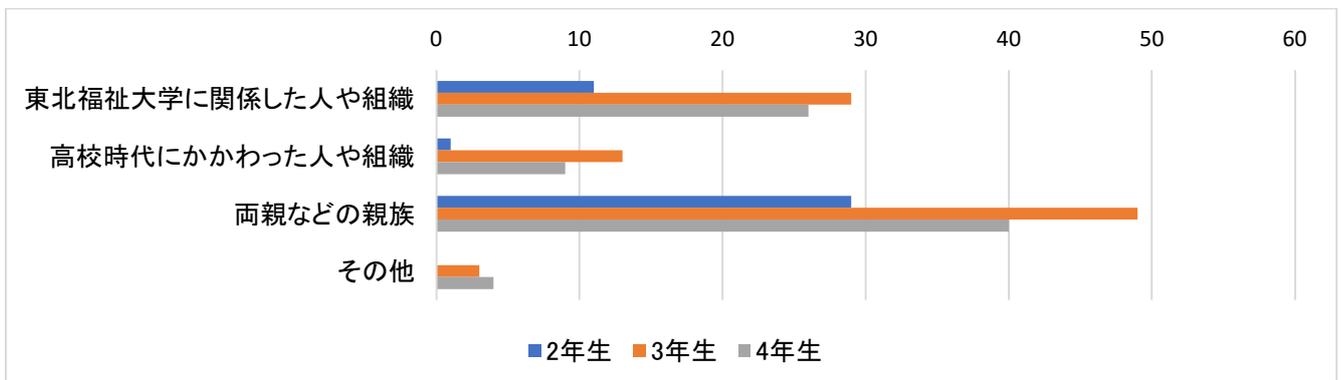
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

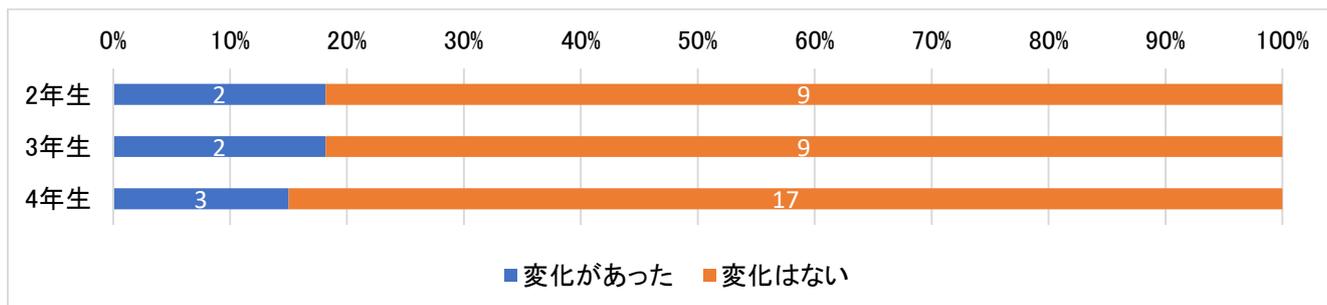


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったもの（「その他」を除く）を全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く21名、ついで「家族の勧め」が10名であった。
- ◆教育学科初等教育専攻の学生は進路を選択するにあたり、約9割（87.5%）の学生は誰かに相談した。特に4年生は進路を選択するにあたり全員誰かに相談していた。
- ◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。

(7) 教育学科 中等教育専攻

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

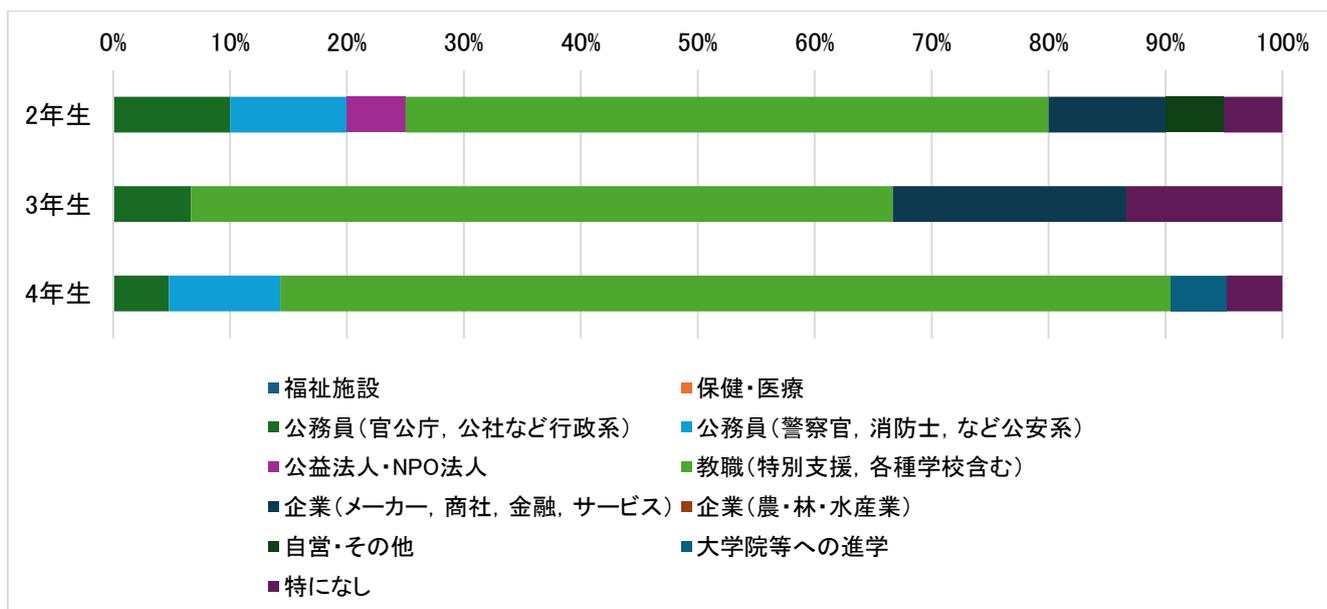


<コメント>

◆教育学科中等教育専攻の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 16.7%であった。入学時から進路に変化があった学生は少なく、約 8 割以上 (83.3%) の学生は入学時から進路に変化がない。一方、初等教育専攻同様、教員になることが主たる目的の学科において 16.7%の学生が進路に変化が生じている。

◆学年別にみると、2 年生と 3 年生が 18.2%、4 年生は 15.0%であった。志望する進路に変化があった学生に学年による違いは見られない。

2. 入学時に志望していた進路



<コメント>

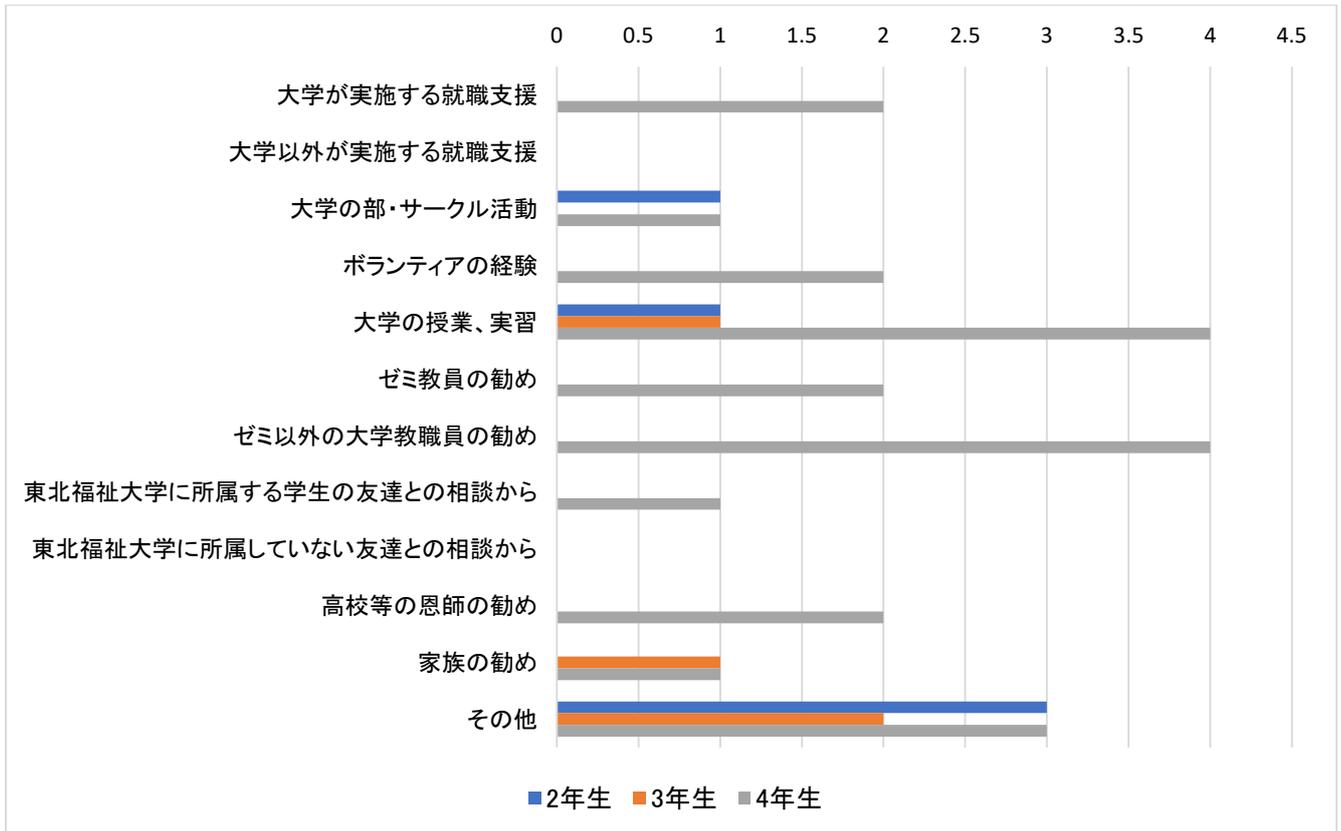
◆教育学科中等教育専攻の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「教職(特別支援, 各種学校含む)」の割合が最も高く 64.3%、つぎに「企業(メーカー, 商社, 金融, サービス)」8.9%、公務員(官公庁, 公社など行政系)および「公務員(警察官, 消防士, など公安系)」7.1%の順であった。学科の特徴の通り入学時に「教職(特別支援, 各種学校含む)」を志望している学生が圧倒的に多い。

◆2~4 年生すべてで入学時に「教職(特別支援, 各種学校含む)」を志望していた学生の割合が最も高い。

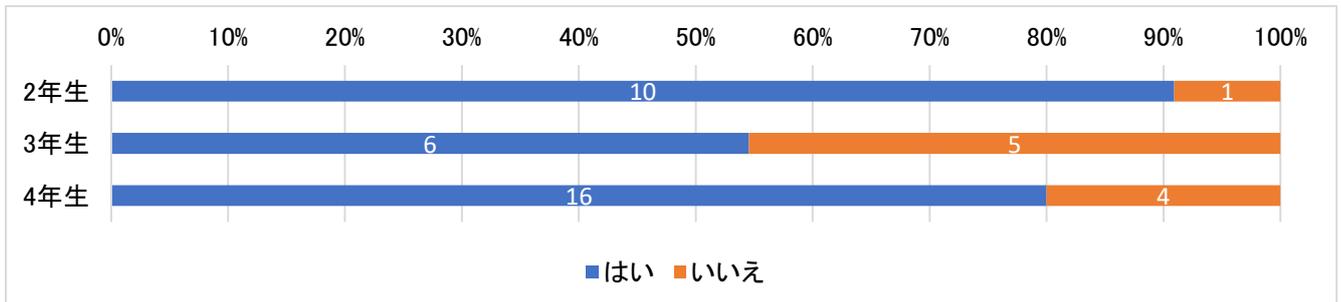
◆教育学科中等教育専攻では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が比較的少ないことから、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。ただし、3 年生では「特になし」と回答した学生の割合は 13.3%とやや高めであった。

◆入学時から進路が変化した学生を見ると、「教職(特別支援, 各種学校含む)」に変化が最も多く 12 名、ついで「企業(メーカー, 商社, 金融, サービス)」に変化が 3 名であった。

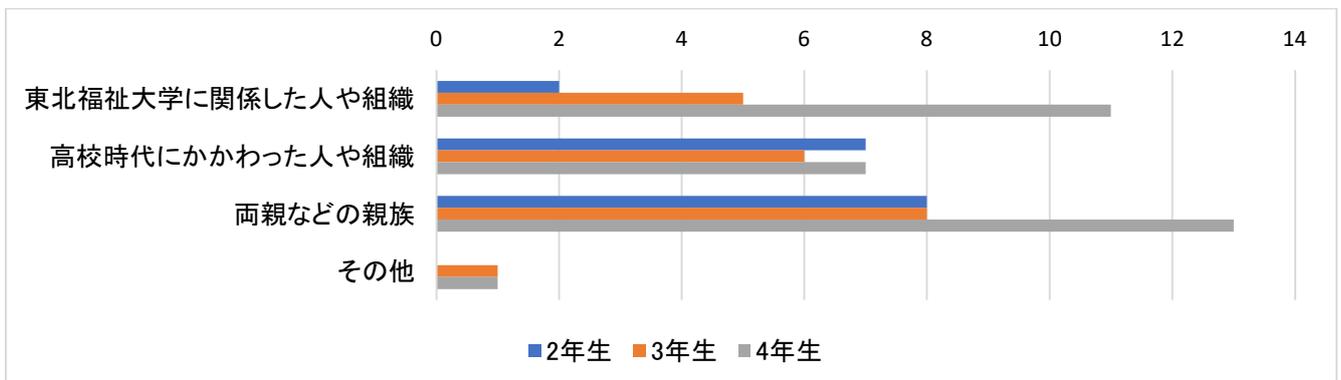
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

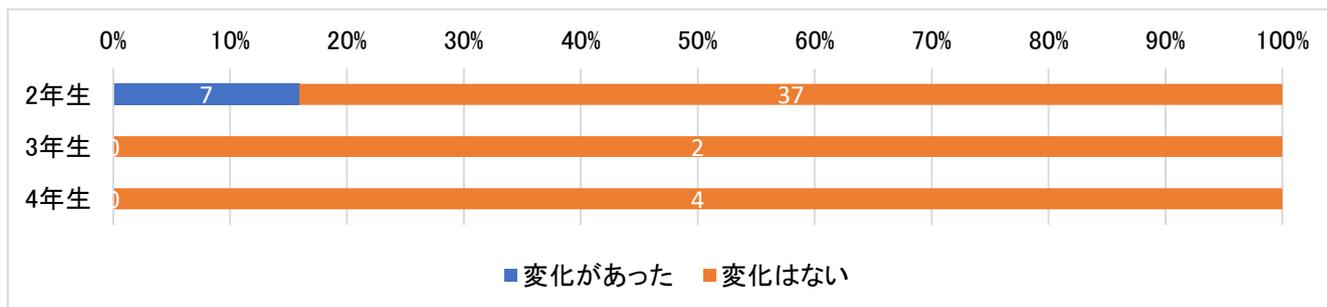


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったもの（「その他」を除く）を全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く6名、ついで「ゼミ以外の大学教職員の勧め」が4名であった。
- ◆教育学科中等教育専攻の学生は進路を選択するにあたり、76.2%の学生は誰かに相談した。一方で、23.8%の学生は進路を選択するにあたり誰にも相談していない。特に、3年生の45.5%は相談していない。
- ◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。

(8) 保健看護学科

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

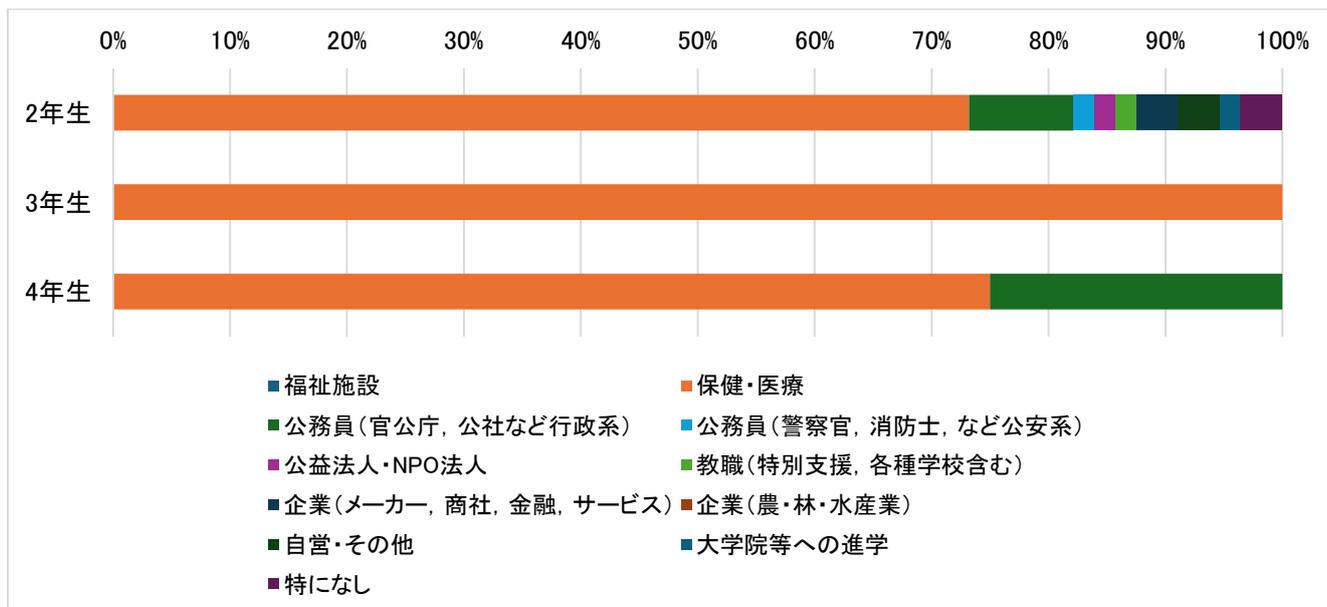


<コメント>

◆保健看護学科の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 14.0%であった。入学時から進路に変化があった学生は極めて少なく、約 9 割(86.0%)の学生は入学時から進路に変化がない。特に、3 年生と 4 年生は全員入学時から志望する進路に変化はない。

◆一方、2 年生の 15.9%は志望する進路に変化があった。看護師(保健師、助産師)になることが主たる目的の学科において 15.9%の学生が進路に変化が生じている。

2. 入学時に志望していた進路



<コメント>

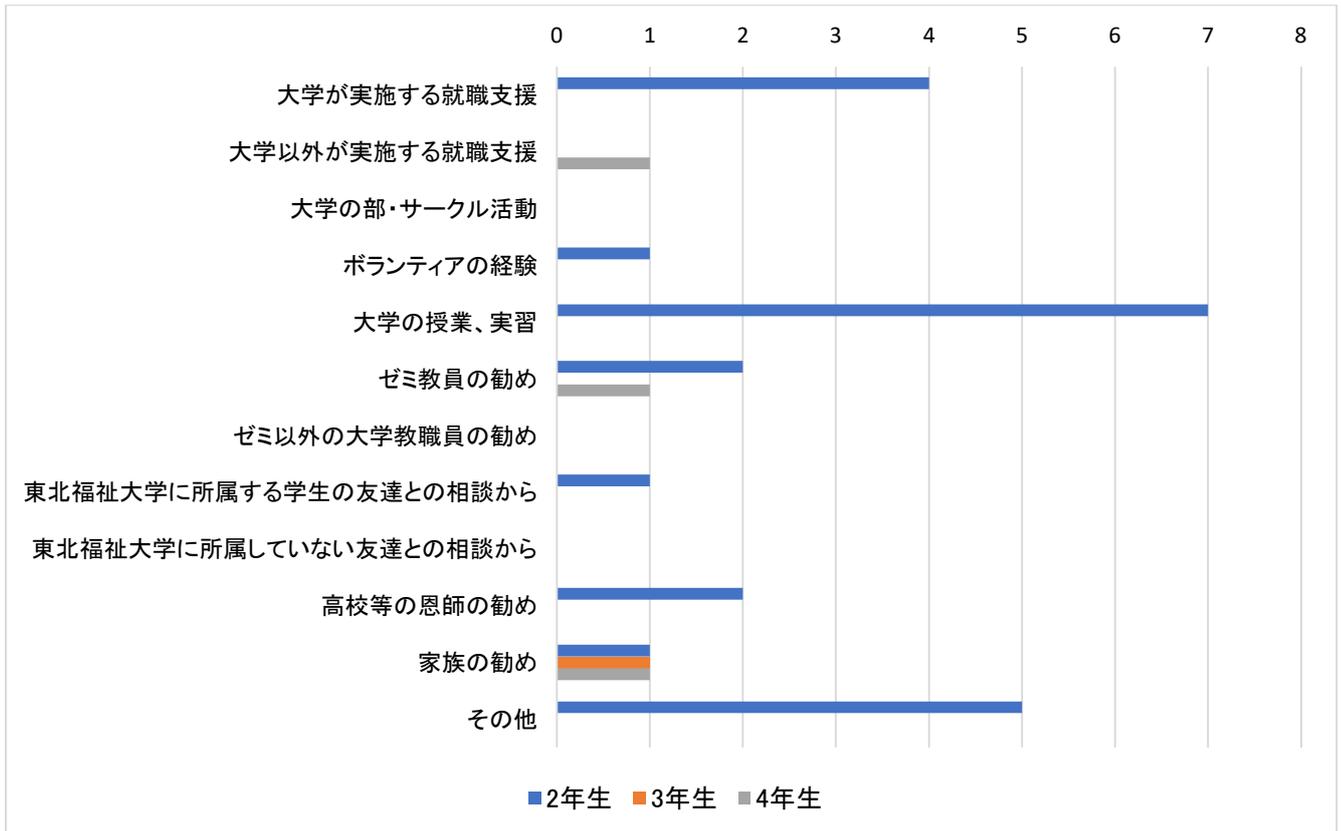
◆保健看護学科の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「保健・医療」の割合が最も高く 74.2%、つぎに「公務員(官公庁、公社など行政系)」9.7%となっている。学科の特徴の通り入学時に「保健・医療」を志望している学生が圧倒的に多い。なお、「公務員(官公庁、公社など行政系)」の割合が比較的高いのは保健所や保健センター等で勤務する市町村保健師を希望している学生によるものであると思われる。

◆2~4 年生すべてで入学時に「保健・医療」を志望していた学生の割合が最も高い。特に 3 年生は全員入学時に志望していた進路が「保健・医療」であった。

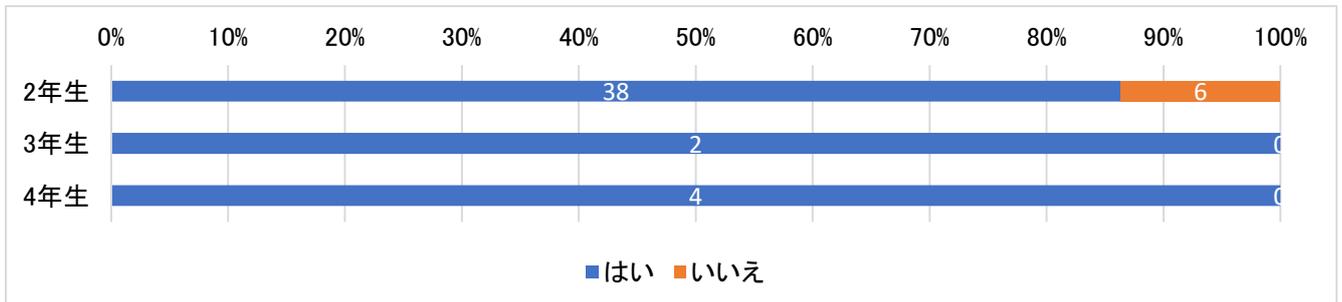
◆保健看護学科では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が極めて少ないことから、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。

◆入学時から進路が変化した学生を見ると、「保健・医療」に変化が最も多く 15 名であった。これは看護師から保健師、看護師から助産師への変化等と思われる。ついで「大学院等への進学」に変化が 4 名であった。

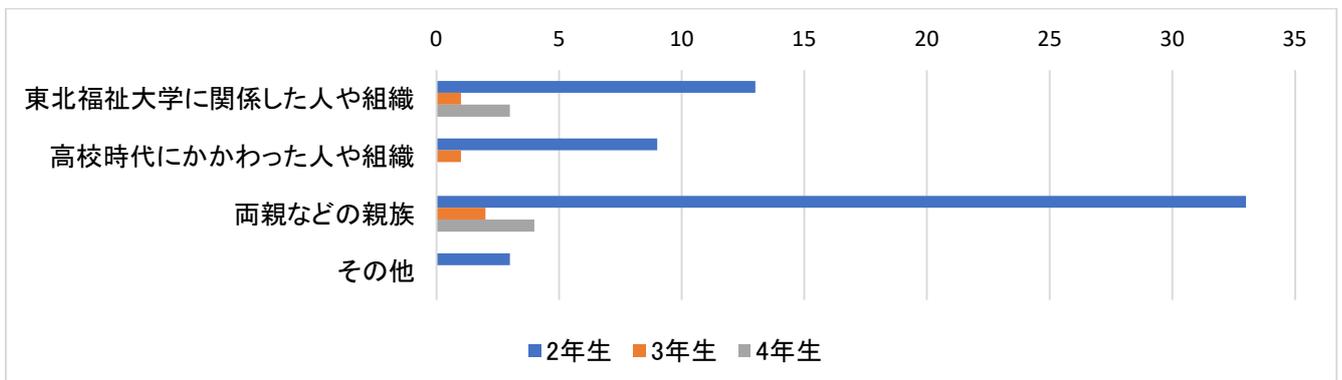
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



6. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

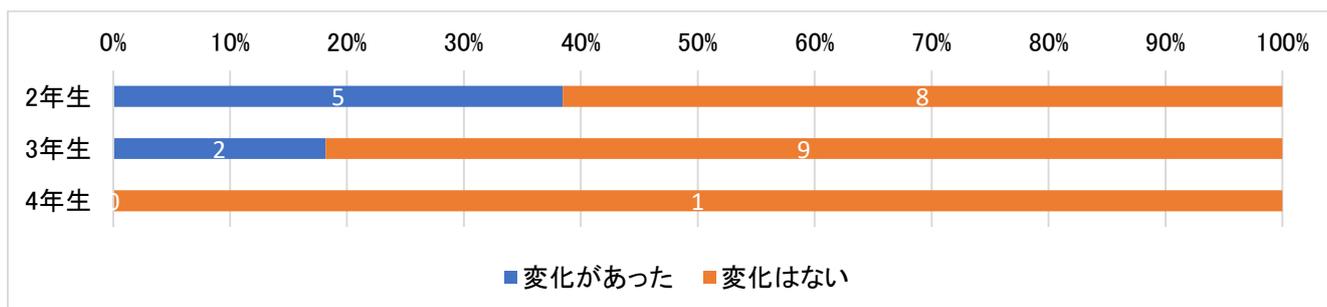


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったもの（「その他」を除く）を全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く7名、ついで「大学が実施する就職支援」が4名であった。
- ◆保健看護学科の学生は進路を選択するにあたり、約9割（88.0%）の学生は誰かに相談した。特に、3年生と4年生は全員進路を選択するにあたり、誰かに相談している。
- ◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。

(9) リハビリテーション学科 理学療法学専攻

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

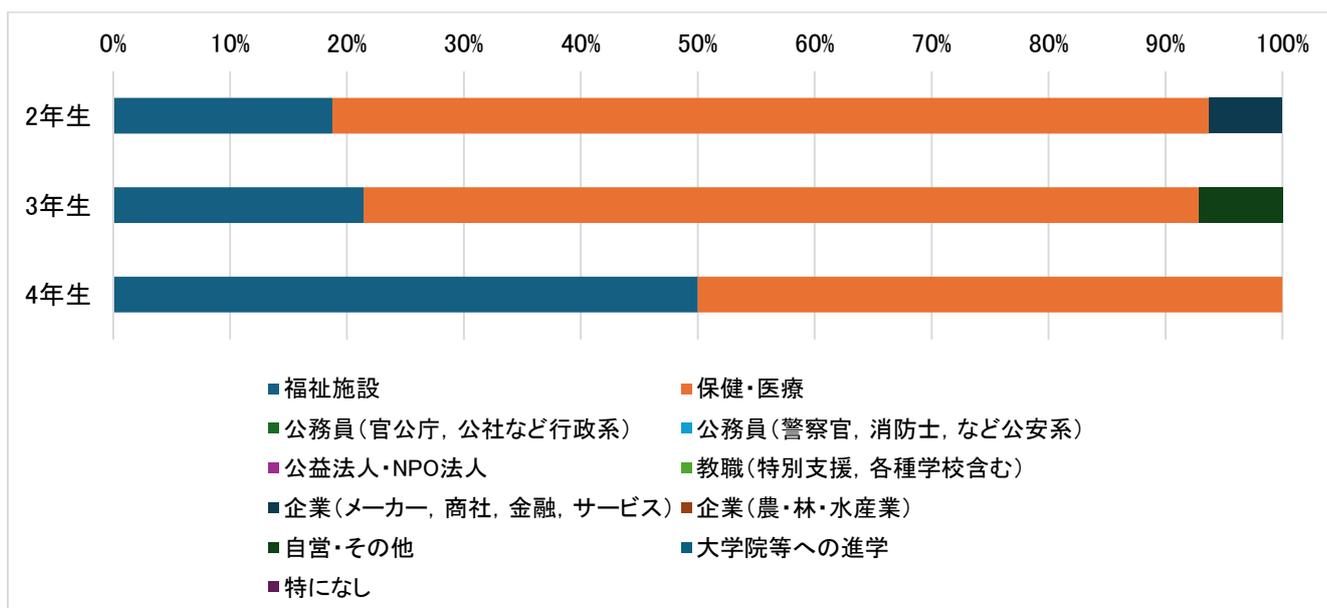


<コメント>

◆リハビリテーション学科理学療法学専攻の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 28.0%であった。入学時から進路に変化があった学生は少なく、72.0%の学生は入学時から進路に変化がない。

◆一方、理学療法士になることが主たる目的の学科において約 3 割の学生は進路に変化が生じている。特に 2 年生は 38.5%の学生が進路に変化が生じている。

2. 入学時に志望していた進路



<コメント>

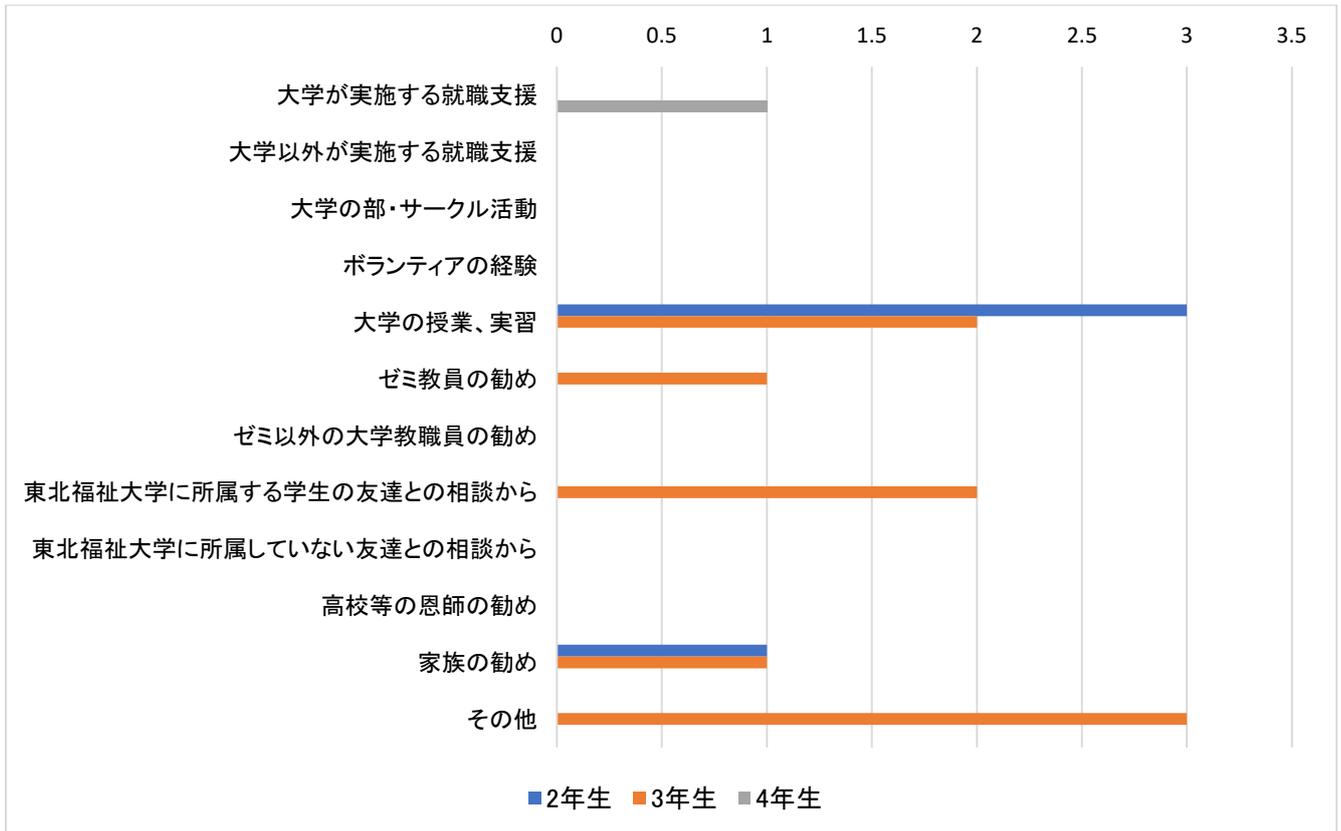
◆リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「保健・医療」の割合が最も高く 71.9%、つぎに「福祉施設」21.9%となっている。この両方で 93.8%を占めている。学科の特徴の通り入学時に「保健・医療」および「福祉施設」を志望している学生が多い。

◆2 年生、3 年生は入学時に志望していた進路に大きな違いはない。なお、4 年生はサンプル数が少なく分析することが困難である。

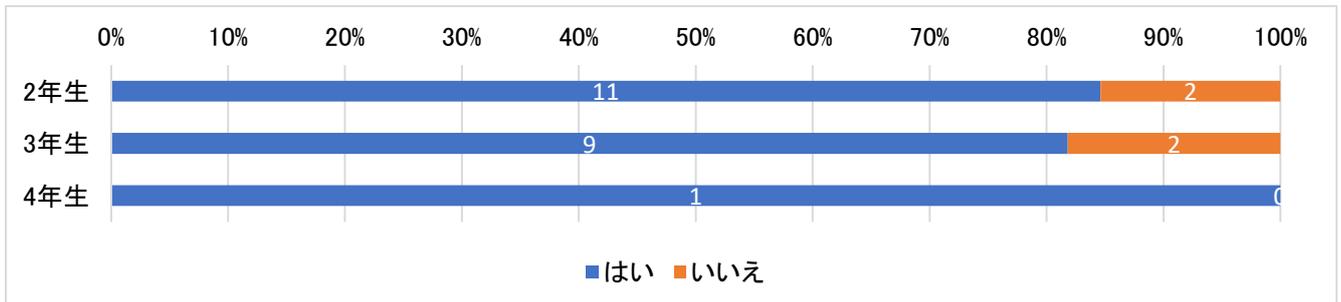
◆リハビリテーション学科理学療法学専攻では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が全くいなかった。このことから、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。

◆入学時から進路が変化した学生を見ると、「保健・医療」に変化が最も多く 10 名であった。ついで「福祉施設」および「企業(メーカー、商社、金融、サービス)」に変化が 4 名であった。企業へ志望先が変化する学生が散見されることに注意を払わなければならない。

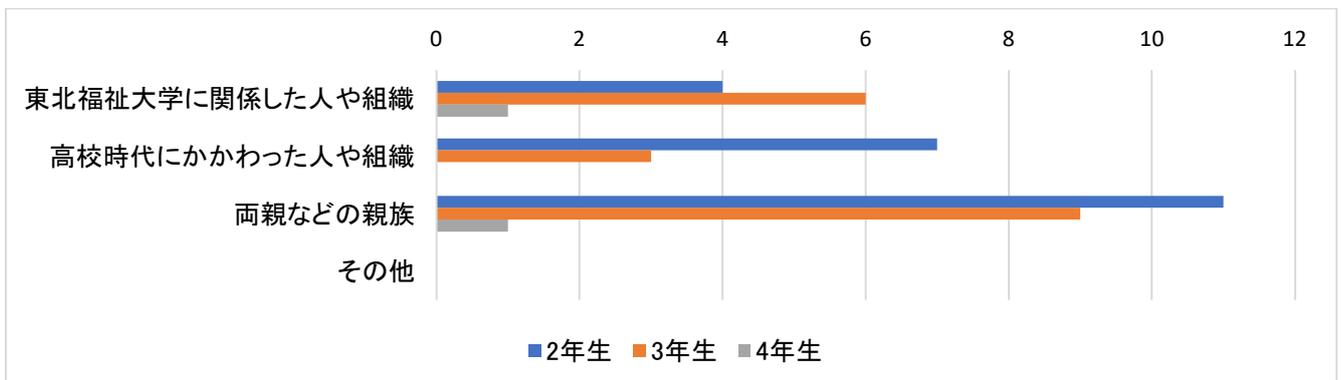
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

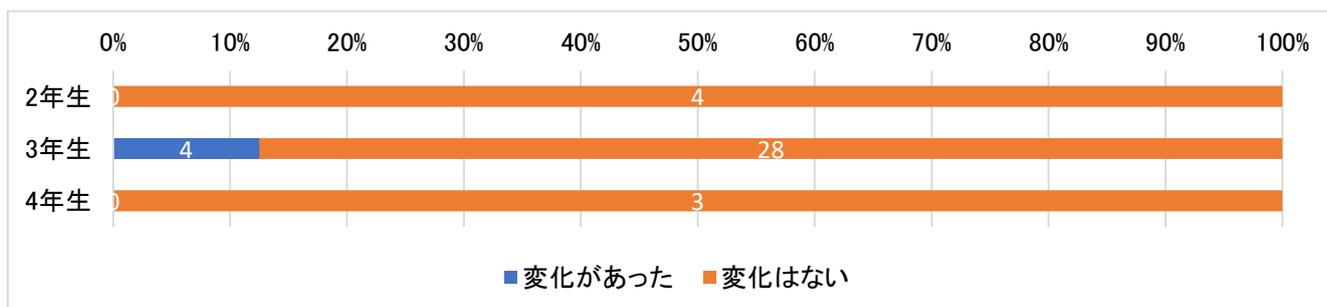


<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったもの（「その他」を除く）を全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く5名、ついで「東北福祉大学に所属する学生の友達（友人）との相談から」が2名であった。
- ◆リハビリテーション学科理学療法学専攻の学生は進路を選択するにあたり、8割以上（84.0%）の学生は誰かに相談した。
- ◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。

(10) リハビリテーション学科 作業療法学専攻

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

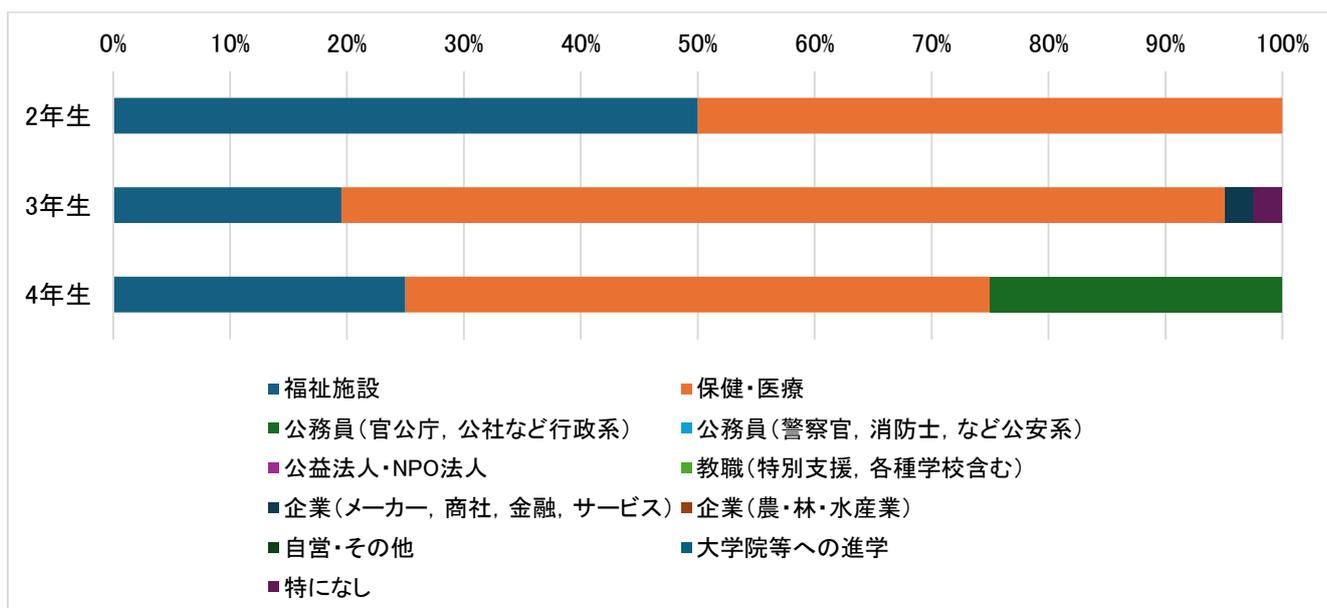


<コメント>

◆リハビリテーション学科作業療法学専攻の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 10.2%であった。入学時から進路に変化があった学生は極めて少なく、約 9 割(89.7%)の学生は入学時から進路に変化がない。

◆2 年生と 4 年生では全員が入学時の進路に変化がなかった。一方、3 年生は 12.5%の学生が進路に変化が生じている。

2. 入学時に志望していた進路



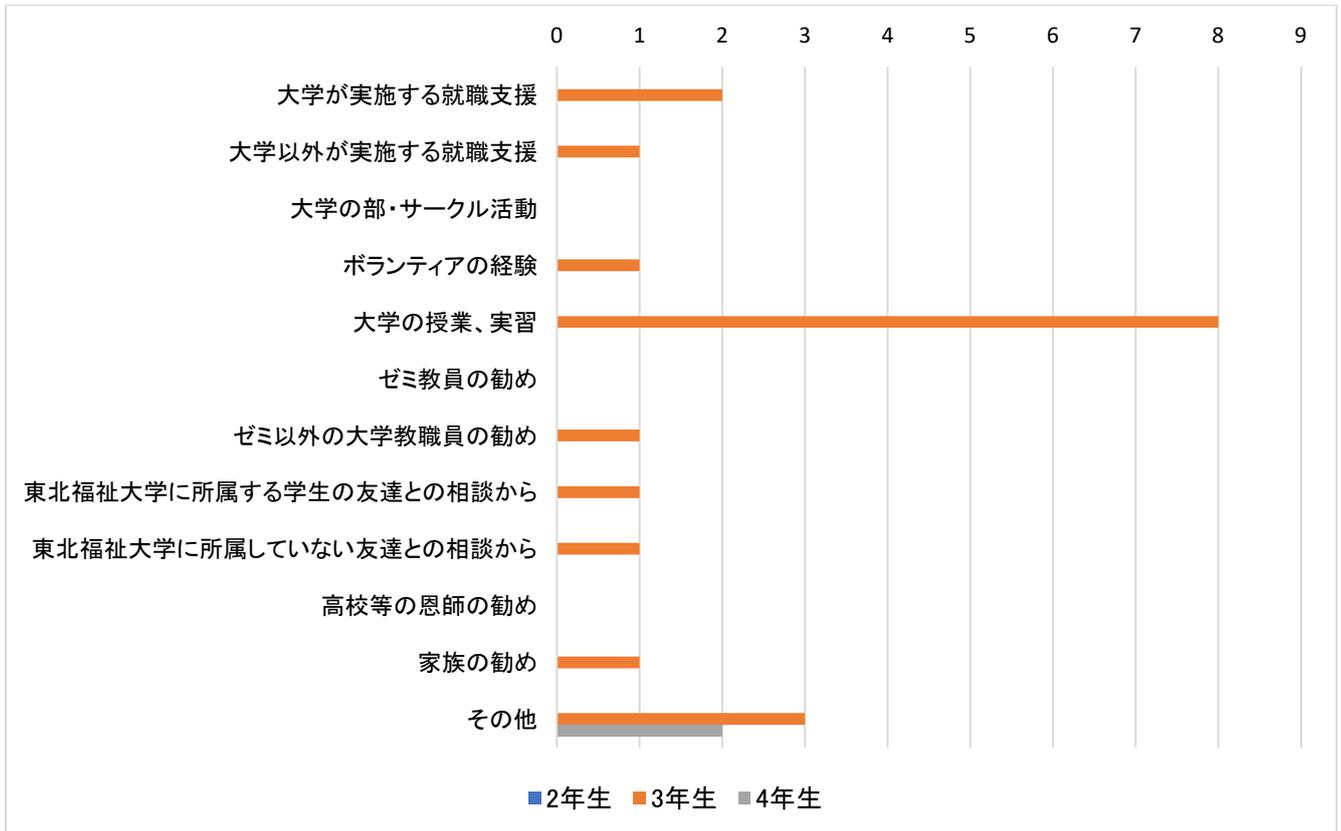
<コメント>

◆リハビリテーション学科作業療法学専攻の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「保健・医療」の割合が最も高く 70.6%、つぎに「福祉施設」23.5%となっている。この両方で 94.1%を占めている。学科の特徴の通り入学時に「保健・医療」および「福祉施設」を志望している学生が多い。

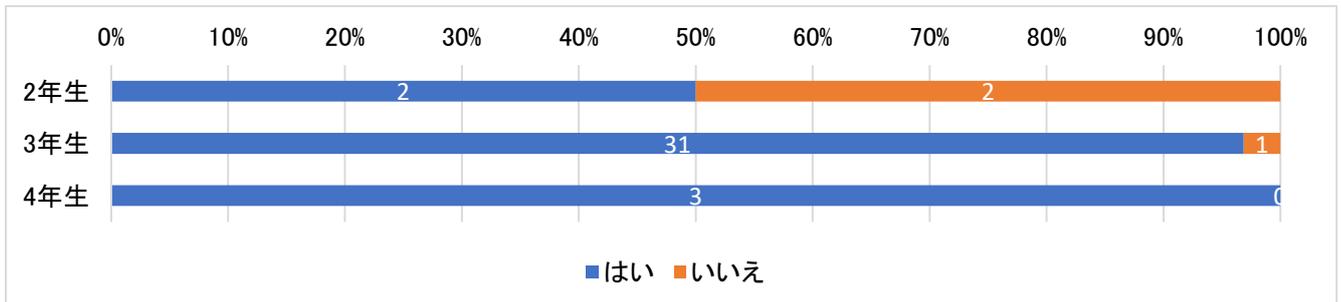
◆リハビリテーション学科作業療法学専攻では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が極めて少なかったことから、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。

◆入学時から進路が変化した学生を見ると、「保健・医療」に変化が最も多く 14 名であった。ついで「福祉施設」に変化が 2 名であった。作業療法士から別の職種への変更とではなく、勤務場所の希望が病院から施設、あるいは施設から病院へ変化したものと考えられる。

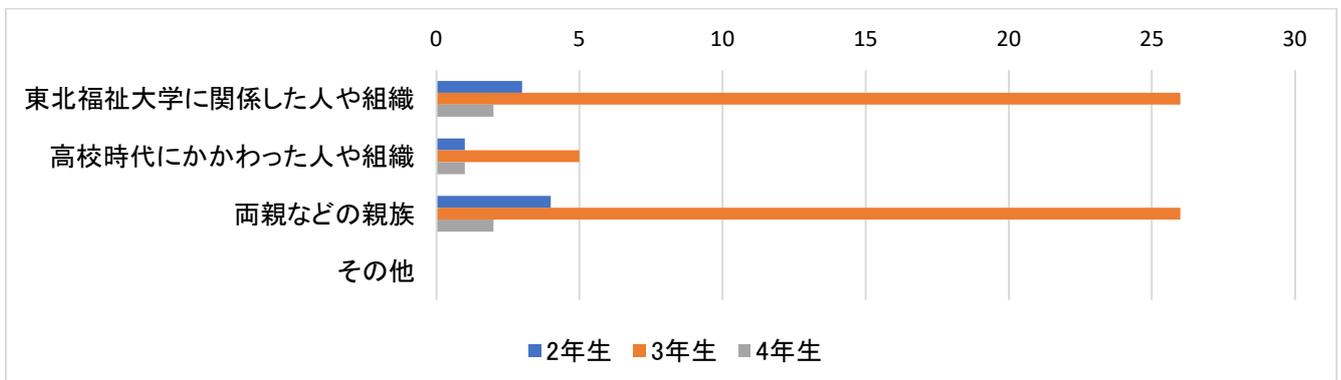
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？

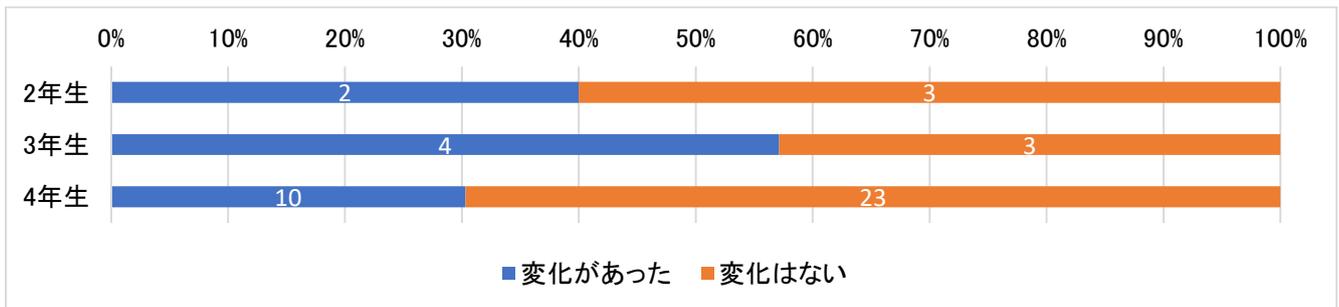


<コメント>

◆進路が変化するきっかけとなったもの（「その他」を除く）を全学年で見ると、「大学の授業、実習」が最も多く8名、ついで「大学が実施する就職支援」が2名であった。
 ◆リハビリテーション学科作業療法学専攻の学生は進路を選択するにあたり、9割以上（92.3%）の学生は誰かに相談した。相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が32名で最も多いが、「東北福祉大学に関係した人や組織」を挙げている学生も多く31名であった。

(11) 医療経営管理学科

1. 入学時と現在で、志望する進路に変化はあったか？

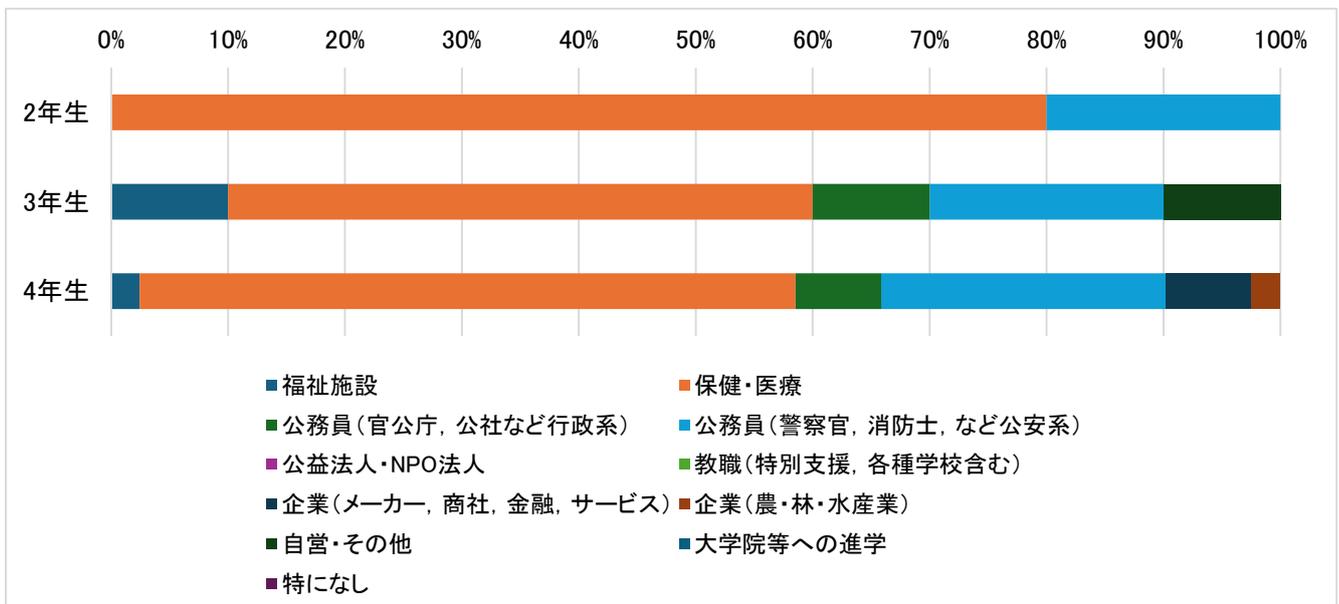


<コメント>

◆医療経営管理学科の学生で入学時と現在で、志望する進路に変化があった学生は、全学年 35.6%であった。一方、入学時から進路に変化があった学生は 64.4%であった。

◆学年別にみると、2年生が 57.1%と高く、つぎに 4年生 40.0%、3年生 30.3%の順であった。

2. 入学時に志望していた進路



<コメント>

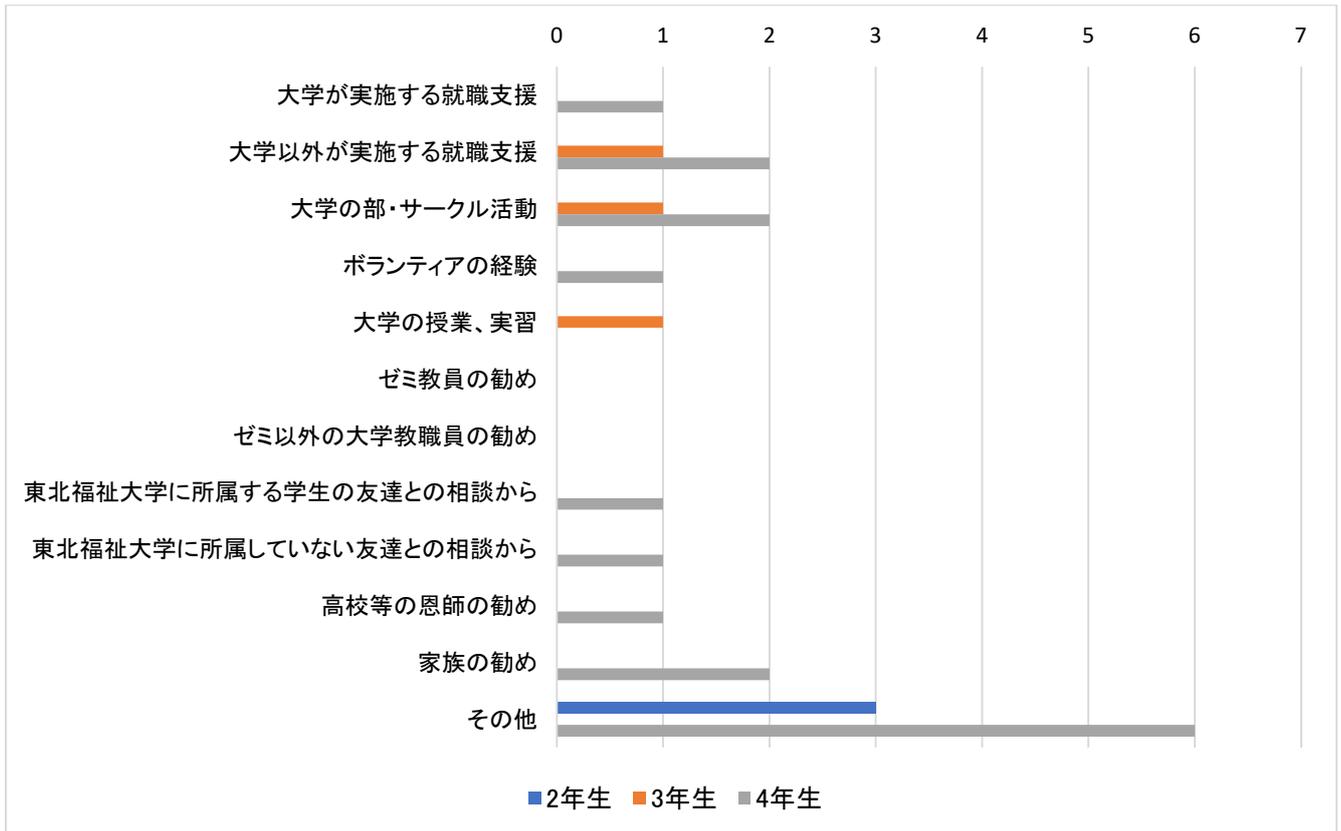
◆医療経営管理学科の学生の入学時に志望していた進路について、全学年で見ると「保健・医療」の割合が最も高く 57.1%、つぎに「公務員(警察官, 消防士, など公安系)」23.2%、「公務員(官公庁, 公社など行政系)」7.1%であった。入学時に「保健・医療」を志望している学生が圧倒的に多いが、「公務員」のニーズも高い。

◆2~4年生すべてで入学時に「保健・医療」を志望していた学生の割合が最も高い。この点は学科の特徴の通りと言える。

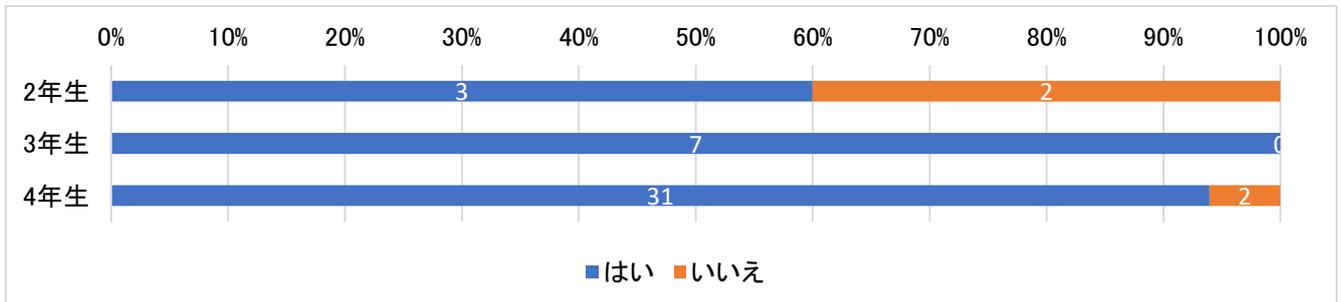
◆医療経営管理学科では入学時に志望していた進路を「特になし」と回答している学生が全くいなかった。このことから、明確な目的意識をもって大学に入学した学生が多いと言える。

◆入学時から進路が変化した学生を見ると、「企業(メーカー, 商社, 金融, サービス)」に変化が最も多く 9名、ついで「保健・医療」が 6名であった。企業へ志望先が変化する学生が散見されることに注意を払わなければならない。

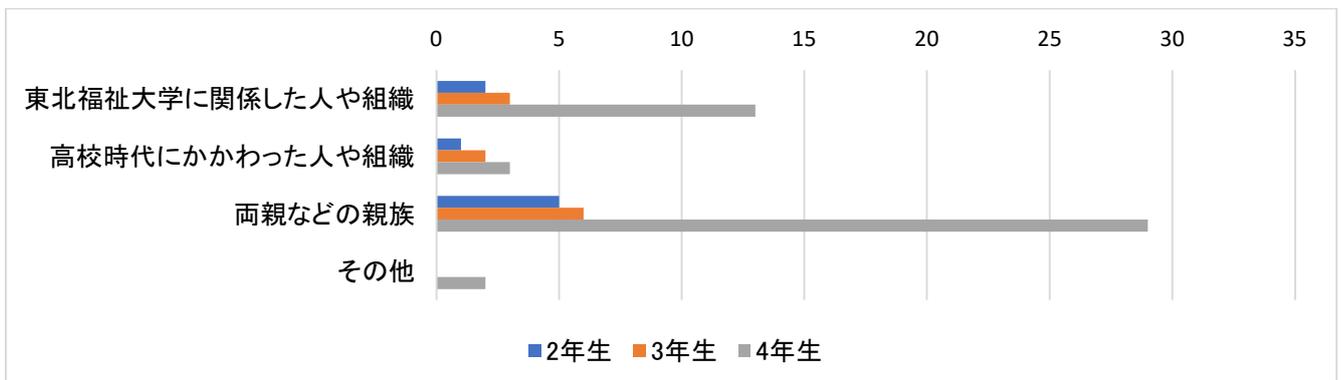
3. 「変化があった」と回答した方、変化のきっかけとなったものは何か？



4. 進路を選択するにあたり、誰か（人や組織）に相談したか？



5. どのような人（や組織）に相談したか（または、相談したいか）？



<コメント>

- ◆進路が変化するきっかけとなったもの（「その他」を除く）を全学年で見ると、「大学以外が実施する就職支援」および「大学の部・サークル活動」が最も多く3名、ついで「家族の勧め」2名であった。
- ◆医療経営管理学科の学生は進路を選択するにあたり、9割以上（91.1%）の学生は誰かに相談した。特に3年生は進路を選択するにあたり全員誰かに相談していた。
- ◆相談した（または相談したい）相手として「両親などの親族」を挙げている学生が最も多い。